

大阪医科大学学報

第86号 平成22年11月
(インターネット版)



銀杏

◆目

中国視察報告	2
三大学医工薬連環科学シンポジウム	4
受賞等について・研究助成金等について	5
平成23年度入学試験要項	6
中山国際医学医療交流センター	12
病院看護部	18
卒後臨床研修センター	21
臨床研究教育研修会報告	22
市民公開講座	23
医学会秋季学術講演会・学内行事	24
看護専門学校	28
臨床治験センター	29

◆次

病院薬剤部	30
医療安全対策室	32
感染対策室・キャリア形成支援センター	33
計報	37
寄付金報告	38
西水会寄付報告	39
行事日程	40
主要会議報告	41
保健管理室からのお知らせ	44
歴史資料館関係・俳句	46
平成22年度医療事故防止標語の標語決定	47

中国視察報告

■中国山西省における看護学教育の視察

大阪医科大学 看護学部

田中克子、カルデナス暁東、西尾ゆかり（慢性期成人看護学）

林 優子、山内栄子、太田名美（急性期成人看護学）

カルデナス先生の旧知の間柄である山西省国際交流センター副センター長李燕萍先生と、山西医科大学の楊輝先生の計らいにより、8月29日から9月4日まで中国山西省にある山西医科大学看護学部と山西中医学院看護学部を視察する機会をえました。

まず山西省について少し説明をさせていただきます。山西省は中国の中部に位置しており、人口は約3,300万人で中国の中で第18位（中国の行政区は23省、5自治区、4行政市、2特別行政区で構成されている）、一人あたりのGDPは第14位です。そして、石炭、アルミなどの貯蔵量が中国トップの資源豊富な省です。

山西医科大学は1919年に設立され、看護学部は2001年に開設されました。現在修士、学部生は合計約1,600名です。一方の山西中医学院は、1986年に設立され、看護学部は2001年に開設されました。現在修士、学部生は合計約660名です。特に、山西中医学院は東洋医学と西洋医学を融合した教育内容を通じて21世紀の社会のニーズに応じられる看護実践の力を身につけることを教育目標にしています。

今回の訪中の目的は、大阪医科大学看護学部と山西医科大学看護学部、山西中医学院看護学部との看護学教育の情報交換でした。山西医科大学では修士課程の学生と教員約150名を対象に林学部長は



「日本の大学における看護教育について」、山内准教授は「日本のがん患者への支援について」、田中は「大阪医科大学看護学部の教育について」講演をいたしました。一方、山西医科大学の学部長・附属病院副院長の王先生から「山西医科大学看護教育の現状と課題」、副学部長・附属病院看護部長・山西省看護協会長の楊先生から「山西省成人看護学教育の現状」について講演がなされました。特に哲学博士でもある王先生は、「看護職者は何のために働くのかを問い続けなければいけない」といわれ、理念の重要性を問われました。ちなみに、山西医科大学看護学部の理念は「愛心仁術」で、愛と心をもって対象者に接し、さらに看護職者としての倫理観をもって技術を使う、といった意味だそうです。この言葉は、大変重みのある言葉で、中国語、日本語に精通している今回の通訳者でもあるカルデナス講師も苦慮するような言葉で表現されたそうです。しかし、不思議なもので、王先生のお話から、私たち日本人にもその雰囲気というか意図を十分感じさせるものがありました。言葉以上のものが私たちにも伝わる素晴らしい講演でした。楊先生の講演から、中国において看護学の大学教育が急速に進み、山西医科大学の附属病院では看護職の大学卒業者比率50%以上であること、さらに、中国では看護職者の離職率が非常に低いことから大学卒業者のうち少数しか附属病院に就職できないといわれました。したがって多くの卒業生はいわゆる地方に就職することです。中国においては医療レベルをはじめ経済、学歴など地域格差が大きいために、地方での就職は学生にとっても厳しいものと想像できます。

中国では、日本と同じ時期に看護学教育の大学教育化が進みましたが、日本と全く異なることは、一部例外があるようですが、中国の看護大学は附属病院をもつことです。この理由は、大学卒業者には高い実践能力、これはどちらかという医師に求められるような医療技術が期待されているので、それを保障するために日本における医学教育と同じように高い臨床能力をもつ附属病院の看護職者が、大学教育に携わなければならないためです。山西医科大学の教員から、1学年の学生数が本年度は400名と説

明されびっくりしました。このように、国からの指導により年によって学生数が異なるという中国の事情から、多くの優秀な学生を育成するためには、附属病院の協力なしには叶えられないのだと思いました。さらに、基礎教育においては医学部と看護学部の学生が同じカリキュラムで勉強し、専門教育でそれぞれ医学と看護学に分かれるそうです。それに関しては全く問題がないとのことでした。せっかくだからということで、王先生、楊先生のご配慮で附属病院も見学させていただきました。師長は30～40歳代と若く、みなさん堂々とした雰囲気でした。楊先生も40歳前半で看護部のリーダーになられ、看護学部、看護部、看護協会と要職にある現役バリバリのスーパーウーマンですが、おシャレでいつも素敵な洋服を着ておられ、誰よりも若々しく堂々とされており、これもすごいと思いました。

中医学院でも同じように学部生約200名の前で講演をさせていただきました。中医学院からは看護学部の馬先生の「山西中医学院看護教育の現状」の講演がありました。中医学院は前述したように東洋と西洋医学の融合教育を行っている大学で、山西省においても高い教育レベルを誇っている大学といわれていました。馬先生のご配慮から特別に看護学部の技術教育を見学できる機会を得ました。その一部をご紹介しますと、健康教育の一環で太極拳を見学することができました。太極拳に関しては、知っているつもりでしたが、実際に見学すると、こんな複雑な体の動きをすぐに覚えられるだろうか正直な感想でした。さらに、つば療法を取り入れた看護技術は、文章でどのように表現したら正確に伝えることができるだろうかとためらいますが、みなさんにぜひご紹介したいと思うものでした。東洋医学の英知を看護実践に生かすことの可能性を実感した見学でした。機会があればもっと深く知りたと思いましたし、我々も同じアジア人として東洋の持っている英知を看護に活かし、世界に発信することが重要であると強く思いました。

今回の訪中を通じて、いろいろなことを改めて考える機会を得ました。同じ東アジアの中国と日本を比較することで今まで思いもよらなかったことを考えるきっかけにもなりました。例えば、生活習慣病予防一つをとっても中国と日本では教育方法についていろいろ異なることが実感できました。わずかな訪中期間ではありましたが、このような機会を得られたことに感謝したいと思います。また、皆さまにこのように中国の山西省の大学の看護学教育に関して一部ご紹介させていただけたこともありがたく思います。最後に、この紙面をお借りして、私たちの訪中に関して多大な仲介の労をとっていただきました山西省衛生庁国際交流センター長の楊誠先生、副センター長の李燕萍先生にお礼を申し上げます。

(文責 看護学部 教授 田中克子)



三大学医工薬連環科学シンポジウム

関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 三大学医工薬連環科学シンポジウムが開催されました

文部科学省戦略的大学連携支援プログラムの一環として、下記の通りシンポジウムが開催されました。

日 時：平成22年10月2日（土）14：30～17：15

場 所：大阪医科大学 別館【歴史資料館】3階



プログラム：

- (総合司会：三大学医工薬連環科学教育研究機構 副機構長／大阪医科大学 出口寛文 専門教授)
- 14：30 開会挨拶 大阪医科大学 竹中 洋 学長
- 14：35 医学からみた医工薬連携への展開
「PARP-1 阻害薬の医療への期待」 大阪医科大学 田中孝生 准教授
- 15：00 看護学からみた医工薬連携への展開
「医工薬連携と看護学」 大阪医科大学 佐々木くみ子 准教授
- 15：25 工学からみた医工薬連携への展開
「医療材料としての金属」 関西大学 池田勝彦 教授
- 15：50 休 憩
- 16：00 招待講演
「新潟発イノベーション創出を目指して—医工薬連携プロジェクトの現状と成果」
新潟大学工学部機械システム工学科
超越研究機構 原 利昭 教授

(特別発言)

- 「新潟大学における医工薬連携の意義—整形外科医の立場から」
新潟大学 超越研究機構 大森 豪 教授
- 17：10 閉会挨拶 関西大学 土戸哲明 教授
(三大学医工薬連環科学教育研究機構長)



シンポジウムの様子



田中孝生准教授



佐々木くみ子准教授



池田勝彦教授



原利昭教授



大森豪教授

受賞等について

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 第29回福見秀雄賞受賞
中央検査部 村上澄子 技術部長

2010年5月28日、東京都・野口英世記念会館にて、公益財団法人黒住医学研究振興財団による第29回福見秀雄賞を受賞されました。

※「福見秀雄賞」とは、小島三郎記念技術賞の創設15周年を記念して創設されたもので、臨床検査・衛生検査領域に半生をささげ、技術の開発、向上に向かって努力し、かつ後進の指導育成に貢献のあった技術者に進呈される賞です。



平成22年度大阪府救急医療功労者知事賞受賞
病院看護部 大岸英子 看護師長

2010年9月9日（木）「救急の日」、大阪府・医師会館にて、多年にわたり救急医療業務に精励し大きな功績のあった方々に対する表彰式が行われました。

*大岸師長のコメント：

『この度名誉ある賞を頂くにあたって御尽力下さった方々に心より感謝申し上げます。救急医療における看護の力が評価されたことを重く受け止め大阪医大の救急看護がより向上するよう今後も努力してまいります。』



研究助成金等について

■平成22年度（第19回）研究助成 国内共同研究（年齢制限なし）案件
[財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団]

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
脳科学を基盤にした中高生の長期ひきこもり社会復帰プログラム	田中 英高（小児科学 准教授）	100万円

○研究協力課から処理（申請・機関承認等）しました公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。
研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

平成23年度入学試験要項

—平成23年度入学試験 について—

平成23年度医学部医学科・看護学部看護学科・大学院医学研究科の入学試験の概要をお知らせ致します。

I 平成23年度 医学部医学科 一般（前期・後期）及びセンター試験利用入学試験 日程

■一般入学試験

試験区分	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期）
募集人員	90名	15名
出願期間	平成22年12月15日（水）～ 平成23年1月28日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る	平成22年12月15日（水）～ 平成23年2月28日（月） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	60,000円	60,000円
1次試験日	平成23年2月10日（木）	平成23年3月10日（木）
1次試験場	【大阪会場】 関西大学 天六キャンパス 【名古屋会場】 河合塾 名駅キャンパス16号館名古屋校 【東京会場】 大手町サンケイプラザ	【大阪会場】 河合塾 大阪校 【名古屋会場】 河合塾 名駅キャンパス16号館名古屋校 【福岡会場】 八重洲博多ビル
1次試験合格発表日	平成23年2月19日（土）16時	平成23年3月16日（水）16時
2次試験日	平成23年2月23日（水） ※1次試験合格者のみに実施	平成23年3月18日（金） ※1次試験合格者のみに実施
2次試験場	本学 本部キャンパス	本学 本部キャンパス
2次試験合格発表日	平成23年2月25日（金）13時	平成23年3月19日（土）13時
入学手続期間	平成23年2月26日（土）～ 平成23年3月4日（金） ※最終日の15時まで	平成23年3月22日（火）～ 平成23年3月25日（金） ※最終日の15時まで

■センター試験利用入学試験

募集人員	5名
出願期間	平成22年12月15日（水）～平成23年1月14日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	32,000円
1次試験日	平成23年1月15日（土）・16日（日） （大学入試センター試験）
1次試験合格発表日	平成23年2月25日（金）13時
2次試験日	平成23年3月2日（水）※1次試験合格者のみに実施
2次試験場	本学 本部キャンパス
2次試験合格発表日	平成23年3月3日（木）13時
入学手続期間	平成23年3月4日（金）～平成23年3月9日（水） ※最終日の15時まで

平成23年度入学試験要項

共 通 事 項 (一般・センター)

1. 納 入 金

(単位：円)

項目	初 年 度 納 入 金			2 年次以降 納入金 (年額)
	納期 第 1 期 (入学手続時)	第 2 期 (8 月 31 日)	第 3 期 (12 月 31 日)	
入 学 金	1,000,000			
授 業 料	640,000	620,000	620,000	1,880,000
実 習 料	120,000	120,000	105,000	345,000
施設拡充費	420,000	420,000	420,000	1,260,000
教育充実費	3,000,000	1,000,000	1,000,000	900,000
納 期 別 計	5,180,000	2,160,000	2,145,000	
年度別納入金	9,485,000			4,385,000
6 年 間 総 計	31,410,000			

(注) 上記納入金以外に、入学手続時にPA会(保護者会)会費(年額100,000円)のうち第1期分50,000円および校友会入会金5,000円、校友会会費(年会費)10,000円をそれぞれ委託徴収します。

2. 任意の寄付

入学後、「募集趣意書」により任意の寄付金をお願いします。
※入学前の寄付金募集は行っていません。

3. 既納入金の返還について

入学手続完了者で平成23年3月31日(木)17時までに本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還します。

なお、一旦納入された入学手続金の返還時期については4月上旬～中旬以降となりますので予めご了承下さい。また、個別の事情による返還時期の変更等申し出には一切応じられませんのでご注意下さい。

4. 奨学金貸与制度について

本学では、学業・人物ならびに経済的事情等を考慮して、選考のうえ貸与する奨学金制度(1学年原則として5名、1人当たり年額約170万円)があります。

上記の他、仁泉会(本学同窓会)奨学金、日本学生支援機構奨学金(旧：日本育英会)、その他の奨学金貸与制度もあります。

5. 特別奨学ローン制度・学費分納制度について

【特別奨学ローン制度】

本学に入学した者および在学生の保護者に対して、本学と協定を結んだ銀行(三井住友銀行 高槻支店、三菱東京UFJ銀行 茨木駅前支店)による本学納入金を使途とする特別奨学ローン制度があります。

融資を希望される方は、融資が実行されるまで相当期間(原則として申し込みから2週間以上)が必要であるため、できるだけ早く各銀行に相談され、お申し込み下さい。

【学費分納制度】

ローン会社(株式会社オリエントコーポレーション)と本学との提携による分納制度があります。なお、ご利用にあたってはローン会社所定の分割手数料が別途必要となります。利用可能なプラン等詳細については事前に必ず、ローン会社までお問い合わせ下さい。

出願資格や各入学試験実施の詳細等については、必ず
入学試験要項(有料：1,200円)の内容をご確認下さい。
資料は下記ホームページから請求可能です。

■入試に関する最新情報や資料請求は■

大阪医科大学ホームページ : <http://www.osaka-med.ac.jp/>

■入試に関するお問い合わせ■

大阪医科大学 広報・入試センター TEL072-684-7117(直)

平成23年度入学試験要項

Ⅱ 平成23年度 看護学部看護学科 一般（前期・後期）・推薦及びセンター試験利用入学試験日程

■一般入学試験

試験区分	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期）
募集人員	50名	10名
出願期間	平成22年12月15日（水）～ 平成23年1月12日（水） ※締切日当日消印有効・郵送に限る	平成22年12月15日（水）～ 平成23年2月16日（水） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	35,000円	35,000円
試験日	平成23年1月21日（金）	平成23年2月27日（日）
試験場	関西大学 天六キャンパス	本学 本部北キャンパス
合格発表日	平成23年1月28日（金）13時	平成23年3月4日（金）13時
入学手続締切日	第1次入学手続締切日 平成23年2月10日（木）15時 第2次入学手続締切日 平成23年2月25日（金）15時	平成23年3月18日（金）15時 【一括納入】

■特別選抜試験

試験区分	推薦入学試験（併願制）
募集人員	20名
出願期間	平成22年10月18日（月）～平成22年11月4日（木） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	35,000円
試験日	平成22年11月14日（日）
試験場	本学 本部キャンパス
合格発表日	平成22年11月19日（金）13時
入学手続締切日	第1次入学手続締切日：平成22年11月30日（火）15時 第2次入学手続締切日：平成22年12月10日（金）15時

■センター試験利用入学試験

募集人員	5名
出願期間	平成22年12月15日（水）～平成23年1月14日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	15,000円
1次試験日	平成23年1月15日（土）・16日（日） （大学入試センター試験）
1次試験合格発表日	平成23年2月14日（月）16時
2次試験日	平成23年2月17日（木）※1次試験合格者のみに実施
2次試験場	本学 本部キャンパス
2次試験合格発表日	平成23年2月19日（土）13時
入学手続締切日	第1次入学手続締切日：平成23年3月4日（金）15時 第2次入学手続締切日：平成23年3月18日（金）15時

平成23年度入学試験要項

共通事項（一般・推薦・センター）

1. 納入金

（単位：円）

項目	納期	初年度納入金		2年次以降 納入金（年額）
		前期（入学手続き時）	後期（9月1日～30日）	
入学金		300,000		
授業料		550,000	550,000	1,100,000
実習料		100,000	100,000	200,000※
施設拡充費		150,000	150,000	300,000
納期別計		1,100,000	800,000	
年度別納入金		1,900,000		1,600,000
4年間総計		6,700,000		

※助産学実習受講者は、4年次の実習料が500,000円となります。

（注）上記納入金以外に、入学手続き時に学友会入会金5,000円、学友会会費（年会費）10,000円をそれぞれ委託徴収します。

2. 任意の寄付

入学後、「募集趣意書」により任意の寄付金をお願いします。

※入学前の寄付金募集は行っていません。

3. 既納入金の返還について

入学手続き完了者で平成23年3月31日（木）17時までには本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還します。

なお、一旦納入された入学手続き金の返還時期については4月上旬～中旬以降となりますので予めご了承下さい。また、個別の事情による返還時期の変更等申し出には一切応じられませんのでご注意ください。

4. 奨学金貸与制度について

日本学生支援機構奨学金の他、本学独自の奨学金として以下の制度があります。

①給付型…1年次については入学者のうち、一般入試（前期）の成績優秀者上位4名に対し50万円給付。

②貸与型…入学後、家計急変等の事情がある学生（4名まで）に対し50万円貸与。

5. 特別奨学ローン制度・学費分納制度について

【特別奨学ローン制度】

本学に入学した者および在学生の保護者に対して、本学と協定を結んだ銀行（三井住友銀行 高槻支店、三菱東京UFJ銀行 茨木駅前支店）による本学納入金を使用とする特別奨学ローン制度があります。

融資を希望される方は、融資が実行されるまで相当期間（原則として申し込みから2週間以上）が必要であるため、できるだけ早く各銀行に相談され、お申し込み下さい。

【学費分納制度】

ローン会社（株式会社オリエントコーポレーション）と本学との提携による分納制度があります。なお、ご利用にあたってはローン会社所定の分割手数料が別途必要となります。利用可能なプラン等詳細については事前に必ず、ローン会社までお問い合わせ下さい。

出願資格や各入学試験実施の詳細等については、必ず
入学試験要項（無料）の内容をご確認下さい。
資料は下記ホームページから請求可能です。

■入試に関する最新情報や資料請求は■

大阪医科大学ホームページ : <http://www.osaka-med.ac.jp/>

■入試に関するお問い合わせ■

大阪医科大学 広報・入試センター TEL072-684-7117（直）

平成23年度入学試験要項

Ⅲ 平成23年度 大学院医学研究科（博士課程）一般・社会人・外国人留学生入学試験要項

1. 専攻・コース名

専攻・コース名		授 業 科 目	
医 学 専 攻	予防・社会医学研究 コース	微生物学・感染制御学 リハビリテーション医学	法医学 衛生学・公衆衛生学 心理学 救命救急医学
	生命科学研究 コース	解剖学 生理学 生化学	薬理学 生体分子学
	高度医療人養成 コース	病理学 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 内科学Ⅲ 皮膚科学 放射線医学 臨床検査医学 胸部外科学 脳神経外科学 整形外科学 産婦人科学 麻酔科学 泌尿器科学 救命救急医学 リハビリテーション医学	神経精神医学 小児科学 一般・消化器外科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 形成外科学
	再生医療研究 コース	解剖学 一般・消化器外科学 形成外科学 脳神経外科学	胸部外科学 整形外科学 産婦人科学 病理学 眼科学 薬理学
	先端医学研究 コース	【がん医療に携わる専門医師養成コース】 ・がん薬物療法医プログラム ・放射線治療医プログラム ・腫瘍内視鏡外科医プログラム 【腫瘍特異的治療研究コース】 【疾患プロテオミクス解析コース】	内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 放射線医学 一般・消化器外科学 胸部外科学 泌尿器科学 産婦人科学 脳神経外科学 放射線医学 臨床検査医学 薬理学 生理学

2. 入学試験

募集人員	54名（一般入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験の合計）	
出願期間	(10月入試) 平成22年9月1日（水）～平成22年9月30日（木）※必着 (2月入試) 平成22年12月1日（水）～平成23年1月7日（金）※必着	
入学検定料	30,000円	
試験日	(10月入試) 平成22年10月29日（金） 平成22年10月30日（土）	専攻授業科目 外国語・面接
	(2月入試) 平成23年2月4日（金） 平成23年2月5日（土）	専攻授業科目 外国語・面接
合格発表	(10月入試) 平成22年11月19日（金）午前9時 (2月入試) 平成23年2月25日（金）午前9時	
入学手続締切	(10月入試) 平成22年12月14日（火）15時迄（締切厳守） (2月入試) 平成23年3月11日（金）15時迄（締切厳守）	

3. 学費

	初年度学費（入学金含む）			2年次以降納入金 （年額）
	第1期 （入学手続時）	第2期 （8/1～8/31）	第3期 （12/1～12/31）	
入 学 金	230,000円			
授 業 料	70,000円	70,000円	60,000円	200,000円
実 習 料	40,000円	30,000円	30,000円	100,000円
合 計	340,000円	100,000円	90,000円	300,000円

4. 奨学金給付制度

大学院入学後、解剖学、病理学、微生物学・感染制御学、生理学、生化学、薬理学、生体分子学、衛生学・公衆衛生学、法医学、心理学の各教室に所属する大学院生に対し、在学期間中に年額300,000円（授業料・実習料相当額）の奨学金を給付します。

5. 学生教育研究災害傷害保険

大学院在学中、実験・実習などの正課、大学行事、課外活動、大学敷地内における不慮の事故及び通学途中・施設間移動中における交通事故等が発生した場合に対する補償制度です。

本研究科では、大学院在籍中により安心して研究活動を推進できるよう学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約保険含む）Bタイプ及び医学生教育研究賠償責任保険（医学賠）に全員加入しています（費用は本研究科が負担しています）。

6. 長期履修制度

社会人入学試験を経て入学した学外にて勤務する臨床医、開業医、または本学にて勤務するレジデント等の身分を有する大学院生や、育児、介護等の事情によりやむを得ない事情が生じた大学院生のうち希望者を対象に、標準修業年限（4年）を超えて一定の期間（5年）にわたり計画的に研究を進めて修了を目指すことができるよう長期履修制度を平成22年度より導入しました。

これにより、初期臨床研修3年目やレジデントからの早期に大学院に入学して医学研究に取り組む若年医師等のキャリア形成を支援します。

出願時点において長期履修制度を活用して標準修業年限（4年）を超えて一定の期間（5年）での修了を目指す場合には、長期履修申請書を提出して下さい。なお、出願時点でまだ確定していない場合には提出不要です。

第3学年次においてあらためて申請期間を設けます。



中山国際医学医療交流センター

■海外夏期短期研修生の派遣について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では国際交流推進の一環として、医学部学生・教員の海外研修を積極的に行っており、今年7月から8月にかけて交流協定などに基づき下記の各大学に本学学生を派遣しました。

❖米国ウィスコンシン大学Greene教授主催ワークショップと臨床研修

研修期間 平成22年7月18日(日)～8月8日(日)

派遣学生 4年生1名、5年生1名 西田浩孝君(4年生)、宮高泰匡君(5年生)

❖ロシア・アムール医科アカデミー臨床研修

研修期間 平成22年7月22日(木)～8月9日(月)

派遣学生 5年生4名 浜畑好昌君、大矢希君、井上亮君、酒井美恵さん

引率教員 歯科口腔外科 木村吉宏先生

❖中国医科大学臨床研修

研修期間 平成22年7月26日(月)～8月6日(金)

派遣学生 5年生2名 中野和俊君 古曾部和彦君

❖米国ハワイ大学PBLワークショップ

研修期間 平成22年8月15日(日)～8月20日(金)

派遣学生 3年生3名、4年生1名、5年生2名

高木麻衣さん(3年生)、城玲央奈さん(3年生)、本田武史君(3年生)

三輪晶子さん(4年生)、高田卓磨君(5年生)、浜畑好昌君(5年生)

また、上記各派遣に加え、春期タイ・マヒドン大学、ハワイ大学院外臨床実習派遣についても含めて、9月30日には海外派遣学生報告会も行いました。

以下に各夏期研修内容について、派遣学生諸君に感想を述べていただきました。



■2010 Akahige Workshop

5年生 宮高 泰匡

7/18～8/8の三週間、米国ウィスコンシン州にて開催されたWorkshop programに参加させて頂きました。初めの二週間は自然豊かなSpring Green Farmに滞在し、他大学の学生と共に野外活動と診察の練習をし、最後の一週間は学生がそれぞれ別の街の診療所に配属され、臨床実習を受けました。

(7月18日～8月1日) @Spring Green Farm

Spring Greenの農場では、午前は主に座禅や野外活動をし、午後は模擬患者を相手に英語で問診と身体所見を取る練習を行いました。まず、ミシガン大学家庭医療学講座の神保先生から身体診察の仕方について講義を受け、先生の診察を見せて頂き、家庭医が行う診察のイメージが膨らみました。それから、二週間の間に胆のう炎、狭心症など計8症例について模擬患者に診察を行い、ビデオレビューをしまし

た。さらに、学生自身又はその家族が経験したことのある症例の患者となり、互いに診察しました (Simulated Patient)。

州都にあるウィスコンシン大学の大学学内・大学病院、Meriter という大病院、Primary Care Medicineを行っている Wingra の診療所へも訪問し、米国では患者さんのプライバシーが優先されるため、どちらの病室もすべて個室であったり、ICUやNICUでさえ、隣とは壁で仕切られて完全な個室になっていることに大変驚かされました。

また貧しく保険に入っていない人々のため、医師・看護師など医療従事者がボランティアで、週二回夕方から無料診療を行っている Dodgeville の Free Clinic も見学させていただきました。ここに来られる97%の方が無保険であり、25%の方が月の給与が500ドル以下という現実を知り、アメリカの抱える保険医療問題の一端を垣間見ることができたと同時に、その解決策の一つを実践されていた診療所を見学できたことにとっても感銘を受けました。



Dodgeville Free Clinicにて模擬患者さんと英語で医療面接・身体診察後に記念撮影
後列一番左が宮高さん、後列右から二人目が西田さん

(8月2日～8月8日) @ Mineral Point

後半の一週間は、伝統的な街並みがあり、風情の豊かな Mineral Point に滞在し、診療所での実習を行いました。Dunn 先生という若手の医師と Peggy という Nursing Physician が取り仕切る小さな診療所で、プライマリーケアを見学しました。Dunn 先生の外来では、糖尿病の高齢者を診た後、次に妊婦さんを診る、その次は新学期前の健診に来た少年を診るというように外来が進むので、家庭医の医師が診なければいけない疾患の広さに驚かされました。日本で言うと北海道のような土地で、少なくとも車で15～30分行かないと診療所に行けないので家庭医が必要とされてきた経緯があり、Wisconsin 州では40年前から家庭医療が発達してきたと聞きました。

ところで、最も印象的だったのは、診察を見学した時に、鼠径ヘルニアの触診をさせてもらったことです。それ以前にも Mineral Point の診療所で定期検診のために来院した少年に対して行っていた触診を見ていましたが、OSCEでも経験したことはなく、どのように鼠径輪まで指を差し込めば良いか分からなかったのですが、おそるおそるやってみた所、なんとか出来ました。また、皮膚生検の手伝いもしました。他大学6年生学生が患者さんの腕に局所麻酔をして Biopsy のパンチをした後、切除させて頂きました。本学のクリクラでも手術室で腹腔鏡用のポート創を縫わせてもらったり、眼科で豚眼実習をさせて



Farm houseにて模擬患者さんと医療面接の練習

てもらったことはありますが、実際の外来の患者さんに対して処置をするのは初めてだったのでとても緊張しました。

外来見学の中で、健診に来た少年の付き添いで来た、肥満で糖尿病を持つ母親も一緒に Dunn 先生が診察していたのが印象的で、これが家庭医の行う医療なのかと実感しました。

また、Dunn 先生は私に患者さんの現病歴をとらせてくれましたが、練習した二週間とは違って、ネイティブの方の聞き取りは思っていた以上に速くて難しかったです。実際に診療するとなると医学知識や医学英語はもちろんのこ

と、ネイティブの方の会話を全て聞き取れないと話にならないと痛感させられました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった河野教授、出発までの準備を手伝って頂いた中山国際医学医療交流センターの今尾さん、健康に関する書類などを作成して頂いた保健管理室の澤村先生、そして、現地でお世話になったGreene先生とコーディネーターのMargitさん並びに、診療所実習で教えていただいたDunn先生、看護師のPeggyさんに深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



■アムール医科アカデミーでの研修を終えて

5年生 大矢 希

これまで海外に何週間も滞在したことはなく、しかも滞在先が情報の少ないロシア極東部とあって、出発までは色々と不安なこともありましたが、いきなり出国時の航空機が5時間も遅れて、その日のうちに現地で鉄道に乗り継げなかったり、いざ行ってみたら、これまでにない貴重な経験を数多く積むことができました。

まず、根幹となる病院実習についてですが、現地では産科、内科、外科を廻りました。講義あり、実践あり、手術ありで、盛りだくさんのプログラムでしたが、僕が一番印象に残ったのは、内科で受けた身体診察のレクチャーでした。とりわけ驚



ボロディン教授やアムール医科アカデミーの学生達と

いたのが、肝臓や脾臓の大きさ（上下左右）の打診での測定法です。確かに、打診する場所の内部の成分により音が変わるので、理論上可能とはいうものの、実際にやってみると音の聞き分けはもちろんのこと、音の鳴らし方にも苦労しましたが、先生方は僕らが実際に理解して出来るようになるまで根気強く教えてくださいました。そして、診察法の実践のために、何人もの現地の患者さんに協力していただき、我々が講義を受けている部屋に来ていただきました。（今の日本でやると新聞沙汰になりそうですが、ロシアでは学生の教育機関となっている病院では、協力を求められるかわりに治療費は無料とのことでした。）

ちなみに、現地学生の打診がかなり上手くて驚いたのですが、ロシアでは「実際の患者を相手にその場で身体診察を行って診断を下す」という試験が卒業試験の1つとして課されているため、学生は普段から友人同士や家族相手に手技の習熟に努めているとのことでした。日本でも4年生の終わりにOSCEで身体診察法を習うとはいうものの、お世辞にも実際にベッドサイドで実践して診断が可能なレベルになるとは言い難いですし、自身の勉強態度についてはもちろんですが、大学での教育制度など普段特に何も思わずにしていることについても色々と考えさせられました。



先生の指導の下、聴診中

一方、病院実習以外の時間は、街の博物館やモニュメント、郊外の自然キャンプに連れて行って

もらいました。そうした中で一番驚いたことは、ロシア人は自分の住んでいる街・自分の住んでいる国のことについてよく知っていて、他国に対して非常に興味を持っているということ、そして皆がブラゴヴェシチェンスクという街に住み学んでいるということに誇りを持っているということです。みなさんは、日本のこと、自分の住む街のこと、大学のある高槻のこと、ご存知ですか？海外からの訪問者に案内・解説できますか？今の僕には恥ずかしながら出来ません。国が違えば文化・慣習・制度が大きく異なりますが、その違いを感じることができるためには、自国のことを知っていることは勿論のこと、その違いを相手に伝え議論して初めて、互いの理解が深まるのではないかと思います。

最後になりましたが、現地で我々を快くもてなしてくださったアムール医科アカデミーの先生方・学生のみなさんと、出発にあたって色々のご尽力いただいた中山国際センターの今尾さん、河野教授に、この場をお借りして改めて深く御礼申し上げます。



■中国医科大学実習に参加して

5年生 古曾部 和彦

7月26日から8月6日の約2週間、中国医科大学の実習に参加させていただきました。中国医科大学での実習は今年が初めてで、また中国語をほとんど喋れなかったのでも不安でしたが、充実した時間を過ごすことができました。

最初の1週間は急診科（救急）、残りの1週間は心臓外科をまわりました。

急診科の一階では内科・外科の部屋に隔たりがなく、日本では見られない光景でした。二階の入院患者には中毒が多いところが日本と違いました。



急診科でお世話になった先生方と
左から二人目が古曾部さん、三人目が中野さん



心臓外科でお世話になった于先生(右)と

一度だけ午後5時から10時までの実習を体験しましたが、夕方からのほうが朝よりも患者の数が多くことに驚きました。また、縫合やギプス固定、胸腔穿刺の見学、模型への気管挿管やCPRの練習などをたくさんさせていただきました。

心臓外科ではたくさん手術を見ることができて良かったです。日本ではまだ実習で回っていませんでしたので、とても勉強になりました。また、手術が終わった患者が心臓外科専用のICU（CSICU）に入院しているのを見て、CSICUというものがあることに驚きました。

手術では学生が手伝いや縫合などをしており、日本の大学とは全く異なっていると思いました。早くから手術を経験できるので、学生にとってはとても良い環境だと思いました。

学生が医師ととてもフレンドリーに話している場面をたくさん見て、とても雰囲気が良いと感じました。

休日には中国医科大学の学生に故宮や北陵公園などの観光

やご飯に連れて行ってもらい、楽しい時間が過ごせました。

最後になりましたが、河野教授をはじめ、花房教授、鈴木教授にはこのような貴重な機会を設けていただき心から感謝いたします。また、今回が中国への初めての留学ということもあり、中山センターの今尾さんには出発前から先方とたくさん連絡をとっていただくなど、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



■ハワイ大学のワークショップに参加して

4年生 三輪 晶子

ワークショップに参加させていただいて、最初に驚いたのは、他大学の学生のモチベーションの高さと積極性でした。思ったことを発言し、みんなで症例について推論していこうとする姿勢に、私は初日からとても刺激を受けました。

ワークショップの内容は、診断の仕方を学ぶClinical Reasoning Caseや、私たち学生自身が患者役と医者役になって問診を行うDoctor Patient Communicationなどでした。



その中でとても印象に残ったのは、Manikin simulationです。呼吸困難や心停止で緊急搬送された患者を想定したマネキンに対して、自分たちが適切だと思う薬剤の注射や検査を実際に行うという実習でした。今まで日本で勉強していた時は、単に教科書を読んで覚える「受身の勉強」でしたが、このManikin simulationでは、自分たちで決断して、実行する「実際に近い勉強」ができました。次にすべき検査を考えたり、一刻の猶予もない決断を迫られたりするのは初めてで、本当の意味で知識が身についた気がしました。

Manikin simulation実習だけでなく、その後にあった授業も印象的でした。私達が診察したManikin simulationの症状や病態生理についての問題と選択肢が出され、正解だと思う選択肢のボタンを押します。事前に1～9のボタンが配られており、ボタンを押すと、前のスクリーンに1を押した人20%、2を押した人80%などと表示されます。そうすることでクラス全員が授業に参加できると共に、全員の理解度が一目で分かるので、とても内容の濃い授業となりました。



聴診・呼吸音確認中

今回のワークショップは5日間だけでしたが、日本にいてだけでは経験できない実習や授業をたくさん経験させて頂いたと共に、かけがえのない友達もでき、本当に充実したものとなりました。このような貴重な経験をさせてくださったハワイ大学、大阪医科大学の先生方、中山センターの皆様、お世話になったハワイ大学の友達などすべての方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

■韓国カトリック大学医学部 Sun Kim 教授・Joo Hyun Park 准教授による医学教育講演と学生との談話会の報告

教育センター 宮本 学

教育センターと中山国際医学医療交流センターの共催で、レクチャーシリーズ13として韓国カトリック大学医学部医学教育講座からSun Kim教授とJoo Hyun Park准教授を招聘し本学で講演していただきました。

7月26日 15:00~17:00 新講義実習棟P615教室

1. Curriculum Design in CMC - Process and Outcome

Sun Kim 教授

2. How to Teach Clinical Skills for Medical Students?

Joo Hyun Park 准教授

韓国カトリック大学医学部は、韓国の私立大学医学部でトップといわれる非常に優秀な学生とすばらしい設備を有し、先進的な医学教育が行われています。Sun Kim教授は、長くドイツに居られた医学教育の専門家です。Joo Hyun Park 准教授は、シミュレーションセンター長であり腎臓内科の臨床医でもあります。

韓国では、従来の6年制の医学教育から4年制のメディカルスクールへの移行期であり、医学教育理論に基づいた先進的な教育が行われています。同じ私立医科大学であり、医学教育を第一に挙げる大阪医科大学にとっても非常に参考になる内容でした。また、シミュレーションセンターを利用した臨床教育においても大阪医科大学ではやっとシミュレーションセンターができたばかりでどう発展利用していくのかについての重要な指針となりました。

翌日の7月27日16:00~17:00新講義実習棟P615教室では、本学の学生とカナダ・マックマスター



の学生、本学教員の参加があり、参加者からの自由な質問に懇切丁寧に答えていただきました。特に、参加者が未経験のTeam-based LearningやSkills Labの活用方法、韓国の学生の学習や生活について和気藹々とした雰囲気で行われました。引き続き17:30からの学生との交流会も交換留学について熱心に尋ねる学生も多く、韓国カトリック大学医学部とは平成22年3月4日に国際交流協定を結んでおり、これからの両校の交流が期待されます。

*** 長期にわたって続く療養生活を支援する「看護専門外来」のご紹介 ***

慢性疾患看護専門看護師
看護師長 添田 百合子



糖尿病看護外来（フットケア）実際

平成22年7月、大阪医科大学附属病院の看護専門外来（以下、看護外来）がスタートしました。私は、慢性疾患看護専門看護師*として、本年4月、大阪医科大学附属病院に着任し、慢性の病気とともに生きる患者さんとそのご家族を看護する専門家の立場から、看護外来の開設にたずさわりました。そして現在は看護を提供しています。

「看護外来」という言葉は、多くの方々にとってまだまだあまりなじみのない言葉かもしれませんが、最近、全国のテレビやラジオで、さまざまな施設の看護外来が紹介されるようになってきました。そこで、本誌を

読んでくださっているみなさまにはぜひ、大阪医科大学附属病院の看護外来を知っていただきたいと思い、ここで紹介させていただきます。

* 専門看護師は、日本看護協会が認定する資格です。専門看護師とは「複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識及び技術を深め、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかる」（日本看護協会、2010）ものをいいます。「実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究」の6つの役割を果たします。専門看護師は、大学院修士課程を修了し、日本看護協会の認定審査に合格することで認定されます。専門看護分野には慢性疾患看護など10の分野があります。日本の専門看護師の総数は451名（平成22年9月現在）です。

（看護部 専門・認定看護師紹介 <http://hospital.osaka-med.ac.jp/nrs/2caria/senmonnintei/senmonnintei.html>）

看護外来とは、医師の治療方針に基づき、看護師などが医師と連携しながら患者さんに対するケアや指導を行い、患者さんの在宅療養をサポートする外来のことです。

慢性の病気をもった患者さんは、病気のことをよく知り、自分で自分のからだをみてケア（セルフケア）をしていかなくてもなりません。その過程で、わからないことや困ったことがでてきます。そこで、「療養の世話」のプロフェッショナルであり、専門的な知識と技術をもつ看護師による看護外来が始まりました。現在（平成22年9月）、大阪医科大学附属病院には5つの看護外来があります。看護外来の概要を表1に示します。

看護外来で見てもらうことのメリットは、①医師に相談しにくいことでも、看護師に気軽に聞ける、②わからないことがあれば、納得がいくまで相談できる、③日常生活を把握してもらうことで、より適切な療養につながる、などがあります。

看護外来を担当する看護師は、特定の看護分野の専門的な知識と技術をもつ日本看護協会認定の専門看護師や認定看護師、その他、学会の認定を

様々なスタッフが協力して運営しています!



左から2番目が筆者

もつ看護師等です。

毎日の療養で困っておられる方がいらっしゃいましたら、遠慮なくご相談ください。その場合、看護外来を設置している外来で、「看護外来に相談したい」「看護外来を予約したい」と伝えてください。「患者さんの療養をサポートする」という看護外来の役割を果たすことができるよう、精一杯努力していきたいと思います。みなさまのご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

表1 大阪医科大学附属病院 看護専門外来の概要

看護分野/場所	対象	曜日	時間	担当者
糖尿病看護 (1F総合内科 診察室9)	インスリン自己注射や フットケアを必要とし ている患者様	月・水・木 金	9:00-13:00 9:00-16:00	慢性疾患看護専門看護 師・日本糖尿病療養指 導士
在宅酸素療法看護 (1F総合内科 診察室9)	在宅酸素療法を行って いる患者様	火	13:00-16:00	3学会合同呼吸療法士 集中ケア認定看護師
ストーマケア (消化器外科)	人工肛門を 造設している患者様	月 土:第1・3・5	9:00-12:00	皮膚・排泄ケア 認定看護師
ストーマケア (泌尿器科)	人工膀胱を 造設している患者様	金	14:00-15:00	
透析看護 (1F総合内科 診察室9)	保存期腎不全状態にあ る患者様	木	14:00-16:00	血液浄化センター看護 師 透析技術認定士
禁煙支援 (1F総合内科 診察室9)	禁煙を決意された 患者様	土:第1・3・5	9:00-12:00	禁煙支援専任看護師

*援助の内容により料金が発生します。詳細につきましては、看護外来を設置している各科外来でお尋ねください。

看護外来とは

「看護外来」とは、医師の治療方針に基づき、看護師などが医師と連携しながら患者さんに対するケアや指導を行い、患者さんの在宅療養をサポートする外来です。

皮膚・排泄ケア認定看護師
集中ケア認定看護師

血液浄化センター看護師
透析技術認定士
禁煙支援専任看護師

看護師:慢性疾患療養指導士・呼吸療法士 慢性疾患看護専門看護師

1. 看護師などが在宅療養のサポートを行う
2. 療養に関する質問や相談ができる
3. さまざまな病気や症状に対応している

看護専門外来のご案内

看護専門外来とは、医師の指導のもと看護師等が連携し、患者さんの在宅療養をサポートする外来です。医師の診察時間外に医師の指導のもと、看護師等が連携してケアを行います。

1. 対象となる診療科目について

看護専門外来のご案内

診療科目	曜日	時間	担当
糖尿病看護	月・水・木・金	9:00-13:00 9:00-16:00	慢性疾患看護専門看護師 日本糖尿病療養指導士
在宅酸素療法看護	火	13:00-16:00	3学会合同呼吸療法士 集中ケア認定看護師
ストーマケア	月・土 土:第1・3・5	9:00-12:00 14:00-15:00	皮膚・排泄ケア認定看護師
透析看護	木	14:00-16:00	血液浄化センター看護師 透析技術認定士
禁煙支援	土:第1・3・5	9:00-12:00	禁煙支援専任看護師

2. 予約の方法

① 看護専門外来は、在宅療養のサポートを目的として設置されています。
② 予約は看護専門外来の受付窓口で行ってください。
③ 予約は看護専門外来の受付窓口で行ってください。

看護外来ポスター

*** 「2010 市民の健康フェア」に参加して ***

皮膚・排泄ケア認定看護師 池 智 代
緩和ケア認定看護師 長嶧 美奈子

平成22年9月5日(日)、自らの健康は自らが守ろう「つなげていこう健康の輪」をテーマに「2010市民の健康フェア」(主催:高槻市健康づくり推進協議会 共催:高槻市医師会、高槻市歯科医師会、薬剤師会、大阪府看護協会)が開催され、大阪府看護協会の協力員として参加しました。

近年、糖尿病、高血圧、高尿酸血症等の生活習慣が発症原因に深く関与していると考えられる生活習慣病に対する予防意識、健康に対する意識が高まっています。そのため、疾病予防、病気にかかりにくい心身の健康促進を図る予防医学が重要であり、その啓蒙活動の一環として健康フェアが各地で開催されています。

今回の健康フェアでは、血糖測定や血管年齢測定、体力測定といった健康度コーナーや、口臭測定などの体験コーナー、医療・薬剤・看護・栄養の相談ができる相談コーナーが設けられ、市民の皆様は積極的に健康度の測定や相談を受けられていました。

私たちは、訪問看護師やケアマネージャーと共に「看護相談」を担当しました。認定看護師は、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護を実践し、看護現場において実践、指導、相談の3つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりや質の向上を図ることを目標に日々看護を行っています。

皮膚・排泄ケア認定看護師は、褥瘡、創傷、ストーマなどのスキンケアを中心とした看護を行っています。今回は、褥瘡予防ケア方法についての相談に対して専門的な知識を活かして体位変換の方法や予防的スキンケア方法について実践可能な具体的方法を提示致しました。

緩和ケア認定看護師は、疾患及び治療に伴う苦痛症状の緩和を図り療養の場に応じた患者・家族のQOLの向上を目指した看護を行っています。今回の健康フェアではがんサバイバーの方や悪性疾患を患っている患者の家族から相談を受け、地域がん診療連携拠点病院の紹介や家族間で対処行動がとれるよう情報提供を行いました。

今回、「看護相談」を通して市民の皆様へ認定看護師の存在を知って頂く機会になったと思います。また、あらためて訪問看護師との連携および地域連携、地域における認定看護師の役割の重要性を実感しました。今後も地域におけるの活動や地域連携が充実できるような看護活動を行っていききたいと思います。



■地域保健医療研修を終えて

研修医 鈴鹿 隆保

私は2010年8月の1ヶ月間、地域保健医療研修のために兵庫県神崎郡の公立神崎総合病院でお世話になりました。この病院は兵庫県のほぼ中央に位置し、この地域唯一の総合病院です。南へは30分、北へは1～2時間車を走らせないと次の総合病院はないそうで、この広い地域の住民にとっては「病気は全部神崎病院で診てもらいよってやから。」というような、地域密着型の病院です。

私は、高槻というごく近くに総合病院がいくつかあるような環境の中の、一大学病院での医療しか知りませんでしたので、このプログラムがスタートしたときから是非参加したいと考えていました。行かれた先輩方の勧めもありましたが、本当の地域密着医療とはどういうものを体験してみたかったのです。

業務としては、患者さんの自宅を訪問する訪問看護、訪問リハビリサービス、居宅訪問や、神崎総合病院附属の山間の大畑診療所に同行させていただいた他、内科初診患者さんの問診、外来診察（内科、小児科、東洋医学）、外来各種検査見学（上下部消化管内視鏡、胃瘻増設、気管支鏡、各種超音波検査）、健診見学、入院、救急、当直業務に関わらせていただきました。

入院業務では、肺炎、胆管炎、心不全、腎不全、熱中症などの大学では診ることの少ない症例を担当させて頂くことが出来ました。患者さんの御自宅訪問の際には、訪問サービスの実際を見、御家族の方の介護の苦労や工夫、心境や葛藤なども直接聴く機会もあり、考えさせられることも多かったです。居宅訪問では御本人のADLに合わせた生活環境整備に関わることができ、退院後の自宅での訪問支援の大切さを知りました。

offの時間も、スタッフの方々と職種関係なく、業務後に食事会、飲み会に連れて行っていただいたり、週末に小豆島や地元の夏祭りに誘っていただいたり、非常に仲良く楽しく接して下さり、充実した時間を過ごすことが出来ました。また、都会のネオンや騒々しさもないせいか、毎日の生活も早寝早起きの良いリズムとなり、田舎のゆったりとした時間の流れを存分に堪能することが出来ました。

今回の研修で様々な業務に関わって感じたことは、本当の「全人医療」は地域医療にあるということでした。病院として急性期から慢性期、リハビリ、退院後の訪問サービスまで全てを診るため、病気だけでなく患者さんという人間を、その生活環境、社会的環境を、さらには周りの介護者、家族との関わりまでの全てを考慮しながら診療に当たっているのだと実感し、私自身の患者様を診る視点が広がりました。このことは忘れないよう、今後にしっかり活かしていこうと思います。



1ヶ月という短い期間でしたが、本当に貴重な経験をさせていただくことが出来ました。研修前後で様々な配慮、準備をしてくださった公衆衛生学の先生方、臨床研修センターの方々、そしてなによりも、院長の打村先生、診療部長の呉先生を始め、公立神崎総合病院のスタッフの皆様に感謝しております。非常に温かく御指導、御高配いただきました。どうもありがとうございました。

臨床研究教育研修会報告

■臨床研究教育研修会報告

日時：平成22年7月26日（月）17：30～19：00
場所：P101教室（新講義実習棟1階）
演題：臨床研究の基礎：観察研究計画書の作成をとおして

講師：京都大学医学部附属病院探索医療センター検証部 助教 ^{にいみ}新美 ^{みゆき}三由紀 氏

去る7月26日（月）、大学院医学研究科および臨床治験センターの共同開催により「臨床研究教育研修会」を開催いたしました。

これは、ヒトを対象として、疾病の予防方法、診断方法および治療方法の改善、疾病原因および病態の理解並びに患者の生活の質の向上を目的として実施される臨床研究は、医療の質の向上に必要な科学的根拠（エビデンス）が作られ、そのエビデンスの強さは研究の質によって左右されます。従って、十分に検討された研究計画に基づき、適切な研究を実施することが必要であり、臨床研究に関連する倫理指針の厳守が求められていることから、臨床試験（治験）をはじめとする医学的研究に携わる医療従事者に対して実施したものです。

研修会は林臨床治験センター長の司会のもと、米田大学院委員会委員長開会挨拶の後に新美先生が講演され、観察研究を主体とした計画書の作成をとおして、研究実施計画書とは何か、観察研究計画書を書く時の具体的な注意点を挙げながら、スライドを用いてわかりやすく説明されました。

質疑応答の後、最後に閉会挨拶として林臨床治験センター長より同先生への謝辞等を述べられ、講演は約100名の参加者により盛会のもと終了しました。

次回は平成23年1月24日（月）17時30分より開催する予定ですので、奮ってご参加下さい。

（学務部大学院課）



米田大学院委員会委員長



新美講師



林臨床治験センター長

平成22年度 市民公開講座

■第4回

平成22年9月4日（土） 14時～ 臨床第一講堂

『日本人に多い目の病気 緑内障って？』

眼科 講師 杉山 哲也

『緑内障に影響を及ぼすお薬について』

附属病院薬剤部 高嶋 実季

『正しい点眼方法』

附属病院看護部（アイセンター） 上野山 恵子



平成22年度 高槻市大学交流センター事業 市民講座

[第1回]

平成22年10月7日（木） 16：30～18：00
高槻市総合市民交流センター 7階 第6会議室
『精神科から見た自律神経失調症』
医学部心理学教室 教授 千原 精志郎



[第2回]

平成22年10月14日（木） 16：30～18：00
高槻市総合市民交流センター 7階 第6会議室
『介護・看護の現場、今どうなっているか』
➤すこやかな皮膚を保つコツー床ずれ予防ー
➤健康維持のために一口腔ケアを見直そうー
皮膚・排泄ケア認定看護師 池 智代
摂食・嚥下障害看護認定看護師 壇上 明美



[第3回]

平成22年10月21日（木） 16：30～18：00
高槻市総合市民交流センター 7階 第6会議室
『高齢社会を支える看護の「目」と「手」
ー育ちあう関係づくりをめざしてー』
看護学部 教授 小林 貴子



医学会秋季学術講演会 学内行事

平成22年度 医学会秋季学術講演会

日 時： 平成22年10月27日（水）16時00分～17時20分

場 所： 臨床第一講堂

[特別講演]

『ステロイドホルモンの代謝・性分化における
男性ホルモンの作用機序の研究から病理診断へ』

大阪医科大学 総合医学講座病理学教室
専門教授 辻 求



[特別講演]

『WT1 ペプチドを用いたがんの免疫療法』

大阪大学大学院医学系研究科機能診断科学
教授 杉山 治夫



医療連携内科の会・外科の会合同会議開催

本年度も「医療連携内科の会・外科の会合同会議」を平成22年9月17日（金）16時30分から第2会議室（総合研究棟12階）で開催し、病院医療相談部部長 樋口先生を中心に医療連携室室長 木村先生の司会で、様々な問題の検討を行いました。

参加していただいた先生方は、院内各診療科と医療連携室の窓口になって頂く先生方で、病院医療相談部が各診療科長に依頼して「医療連携室担当医師」を決めています。検討内容としては、先生方からは各科・全科に共通する問題点等を、医療連携室からは各科への協力をお願いや院外からの要望等、橋渡しの役割を含めた事も議題に挙がりました。今後も先生方のご協力を得て、院内・院外の医療連携をスムーズに行っていきたいと考えています。

検討会終了後には引続き、本学地下食堂にて懇親会を開きました。懇親会には医療連携室担当医師以外にも沢山の先生方に参加していただき、検討会では聞けない本音トークを聞くことができました。



消火器取扱訓練および地震体験の実施

平成22年9月9日（木）午後1時30分から総合研究棟前にて、高槻市中消防署の協力により、消火器取扱実地訓練と起震車による地震体験が行なわれました。

新入職員をはじめとする約100名の参加者は、消火器の取扱い方、地震の揺れを体験し災害対策への認識を新たにしました。



院内コンサート

平成22年9月25日（土）午後2時から、附属病院外来ホールにおいて、本学グリークラブ、室内管弦楽部、糖尿病代謝・内分泌内科花房科長、病院看護部による演奏会が行なわれ、最終曲「ふるさと」では来聴者全員が合唱し、楽しいひと時を過ごされました。



保育室運動会

10月9日（土）、保育室の運動会が行われました。予行では晴天の中、園庭で元気いっぱいリズム遊びや各競技を披露できましたが、当日は生憎の雨！室内でかけっこ等のプログラムを楽しみ、大興奮しました。子ども達の一生懸命な姿、可愛いらしさ溢れる姿に、保育室内は温かな拍手と声援に包まれ、“雨の運動会”は皆の晴れやかな笑顔で終了しました。（保育室）



学内行事

第62回 西日本医科学生総合体育大会

第62回西日本医科学生総合体育大会が行われました。名古屋大学医学部を代表主管校として、西日本の44大学が参加し、名古屋を中心会場にして8月上旬にかけて20種目の競技が行われました。

本学の主な成績は以下のとおりです。

総合成績：26位

柔道部	総合	8位	
陸上競技部	幅跳び	3位	根来 孝義
	砲丸投げ	3位	鈴木英里子
	400m	4位	鈴木英里子
	5000m	5位	柏谷 貴之
卓球部	シングル	ベスト16	徐 淮耕、宮岡 愛
	ダブルス	ベスト16	宮岡 愛、河合 由貴
スキー部	総合 男子	4位	
	女子	3位	
	クロスカントリー		
	男子10km	4位	小澤 孝弥
	15km	4位	小澤 孝弥
	女子 3km	1位	西村恵里子
		2位	伊東 優
		3位	田中 稔恵
	継走競技	2位	
ソフトテニス部	ペア	ベスト16	全医体出場
バレーボール部	男子	32位	
	女子	8位	
ヨット部	団体戦	15位	
	スナイプ級	13位	
	470級	16位	
ゴルフ部	団体戦	10位	
	個人戦	2位	大門 篤史
空手道部	団体戦	16位	
	個人戦	8位	松浦 広昂

今年の総合成績は26位でした。参加された選手の皆様本当にお疲れ様でした。また来年も頑張ってください。

先輩諸氏、教職員の皆様、今後とも温かいご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

平成22年 学友会 会長 鈴木 優

平成22年度 さつき会（献体登録者）総会開催

生前委託者（献体登録者）の総会（さつき会）が7月20日（火）午後2時から、本学の新講義実習棟P101教室にて開催されました。

総会当日は、さつき会会員 約170名の出席を賜り、平成21年度成願者の御霊への黙祷を捧げたのち、竹中学長・岡村さつき会会長の挨拶、平成21年度篤志献体活動報告、霊群住職の講話、耳鼻咽喉科学教室・河田教授の「難聴のおはなし」と題した特別講演が行われ、午後3時30分に閉会いたしました。



人権教育特別講義



平成22年度の人権教育に関する特別講義が下記のとおり開催されました。

日時：平成22年10月25日（月） 17：00～

場所：臨床第一講堂

演題：『共生社会を目指した障害児者理解の推進のために～学校教育・家庭教育・地域教育が手をつなぐことの大切さ～』

講師：大阪教育大学
教育学部教養学科人間科学専攻
発達人間福祉学講座
准教授 新崎 国広 先生

著書：「よくわかる社会福祉」 中央法規出版
「福祉教育のすすめ」 ミネルヴァ書房

平成22年度 解剖慰霊祭



日時：平成22年10月16日（土） 10：00～

場所：高槻市現代劇場

当日は好天にも恵まれ、ご遺族、さつき会会員（生前献体登録者）にご参列いただきました。

来賓各位をお迎えし、本学役員、教職員、医学部学生、看護学部生、看護専門学校生の参列のもと、諸霊位に対し、深い感謝とご冥福を祈り、厳かに終了致しました。

名誉・功労教授懇談会

日時：平成22年10月22日（金） 11：30～

場所：ホテル日航茨木大阪



名誉教授12名、功労教授1名の出席により、名誉・功労教授懇談会が開催されました。早石名誉教授・元学長の乾杯の後、藤本名誉教授・元学長の司会により和やかに懇親会が進められました。





避難訓練

平成22年9月1日（水）

夏季休暇が終了し全員集合となったこの日、防災の日になんで避難訓練を行いました。4階在宅実習室で火災が発生した想定で、アナウンスに沿ってクラス単位で避難しました。昨年に引き続き目標時間をはるかに短縮して速やかに避難でき、消火訓練も積極的に取り組みました。

「備えあれば憂いなし」日頃から安全意識を忘れずに行動していきましょう！



交流会

平成22年9月3日（金）

残暑厳しい天候の中、さわらぎキャンパス体育館にて恒例のソフトバレーボールと、ダンス等のパフォーマンスでの交流会を開催しました。今年は2学年での実施となりましたが学年やクラスを超えた交流の機会が持てました。

ソフトバレーボール部門では、午前は予選・午後はトーナメント方式での決勝戦が行われました。午後のトーナメント戦は、さすがに予選勝ち組の対戦とあって白熱した試合展開となり、競技者も応援者も体育館が割れんばかりの歓声で…若い熱気に満ち溢れていました。今年は、粘りある2年生のプレーを制して3年生が優勝しました。パフォーマンス部門ではアイデアを凝らした衣装や演技に参加者全員が一体となることができました。

体育館の中は気温の高さと学生の熱気に包まれて、じっとしていても汗ばむくらいでしたが、心地よい充実感と達成感を得て笑顔で終了することができました。今回得られた各クラスの団結力が今後につながることを期待しています。



■臨床治験センター開設10周年記念講演会開催

臨床治験センターは本年開設10周年を迎えました。これを機に、当院の治験推進に取り組む姿勢を院内外にアピールすることを目的に、平成22年10月1日、「臨床治験センター開設10周年記念講演会」を看護学部・看護専門学校講堂にて、約220名の皆様にご参加いただき開催致しました。

理事長、学長からご挨拶をいただいた後、「臨床治験センターの10年のあゆみ」と題して当センターCRC主任山田より、開設当時からの歴史を振り返るとともに、9年間に渡り実施された治験を例に挙げ、院内各部署の全面的な協力により、大きな問題もなく終了することができた経過について報告を行いました。また、契約症例数の早期達成や診療科情報の公開、事務手続きの効率化など、当院の取り組み事項について説明致しました。

大阪医科大学附属病院
臨床治験センター開設10周年
記念講演会のご案内

1. 日 時
平成22年10月1日(金) 18:00～19:30
2. 演 題
・「治験の円滑な実施のために」
臨床治験センター長 林 哲也
・特別講演 「治験の現状と将来」
講師 独立行政法人 国立病院機構
大阪医療センター院長 楠岡 英雄 先生
3. 場 所
大阪医科大学
看護学部・看護専門学校 講堂
大阪府高槻市八丁西町7番6号

【お問い合わせ先】
大阪医科大学附属病院 臨床治験センター事務局
Tel: 072-659-1221 (内線2257)
Fax: 072-684-6452
担当者: 久慈 さゆり
渡部 奈々江
nanaw@phosaka-med.ac.jp



大阪医療センター病院長 楠岡英雄先生

特別講演は、独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター病院長 楠岡英雄先生より、「治験の現状と将来」という題名でご講演をいただきました。平成9年の新GCP（医薬品の臨床試験の実施に関する基準）省令以降の医薬品開発を取り巻く環境、医薬品開発のために不可欠な治験を推進する上での問題点、そして今後目指すべき方向性について、大変わかりやすく解説していただきました。

医療の進歩に「治験」は欠かすことができません。日本国民が最新・最良の医療を享受するためには、海外標準のシステム、開発スピードが求められます。患者さまの安全性確保を第一に倫理的かつ科学的な治験を推進していくことは大学病院の使命であり、煩雑な治験を遂行できるということは、医療機関の院内体制が優れているとの証ともいえます。日常業務が多忙を極める中ではありますが、今後も引き続き治験推進に向けご協力いただきますようお願い致します。

最後になりますが、大変お忙しい時期にも係らず、院内から100名以上の教職員の皆様にご参加をいただきました。誠にありがとうございました。



■大阪医科大学附属病院 第7回 三島圏域がん・緩和医療セミナーを開催して

日 時：平成22年7月29日（木） 17：30～19：00

場 所：新講義実習棟 P101

テーマ：緩和ケアの場面で薬剤師に期待する役割

講 師：和歌山県立医科大学附属病院

腫瘍センター緩和ケア部門 部門長 准教授 月山 淑 先生



平成22年7月29日、和歌山県立医科大学附属病院 腫瘍センター緩和ケア部門 部門長・准教授 月山 淑 先生を講師としてお招きし、「緩和ケアの場面で薬剤師に期待する役割」と題してご講演いただきました。本セミナーは薬剤部が主催、がんプロフェッショナル養成プランの共催、緩和ケア委員会・看護部の後援で開催し、参加者は83名、当院薬剤部の薬剤師、実務実習中の薬学部学生、近隣保険薬局の薬剤師、当院医師、緩和ケアチームからご参加を頂きました。講演では、我々薬剤師を取り巻く“がん医療の現状”について、平成19年4月に施行された“がん対策基本法”など行政の施策（図1）および、一般市民のがんの痛みに関する意識調査（図2）に基づき説明して頂きました。“がん”に関して、早期発見・早期治療による完全緩解に勝るものはありませんが、それが叶わない場

合には、早期からがん患者の症状緩和を行政も強く推進していること、患者からは痛みなどの症状緩和を早期から強く望まれている事がよく理解できました。さらに、痛みの評価方法、痛みの管理に使用される医療用麻薬の特性および副作用の対処方法、鎮痛補助薬の特性についてご説明頂きました。

緩和医療に対して、医師は“治療”という立場で患者と関わることができ、看護師は“生活援助とバイタルサインの観察”で患者に関わることができますが、薬剤師は何を持って患者と関わりを持つべきか再確認するために今回のセミナーを企画しました。これに対して、想定どおり月山先生から“薬を介して関わるべき”との明解な回答を頂きました（図3）。その関わりを実践するために、緩和ケア病棟がなく症状緩和を必要とする患者が各病棟で療養されている当院では、各病棟の担当薬剤師のスキルを均てん化する必要があると考えていました。また、三島圏域の他の病院薬剤師や保険薬局の薬剤師が一同に介して聴講することにより、地域がん診療連携拠点病院の当院薬剤部と保険薬局などとの薬薬連携のきっかけになると考えました。緩和医療で使用

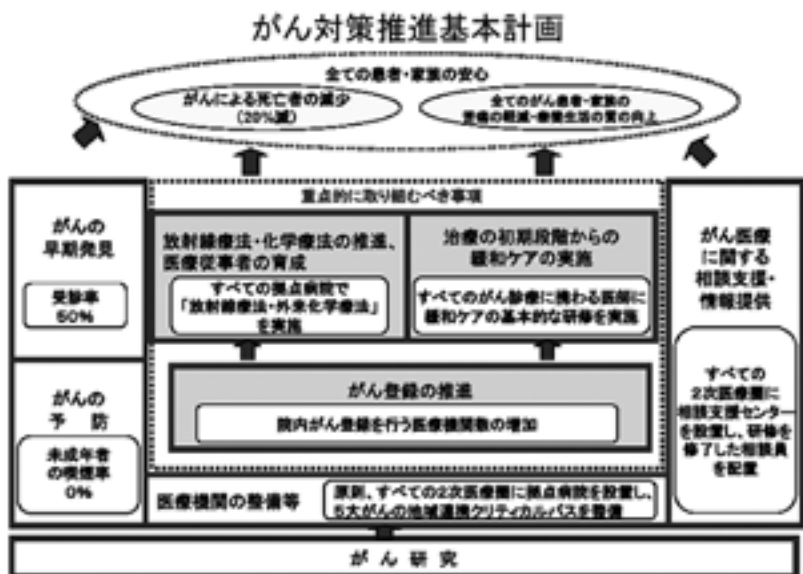


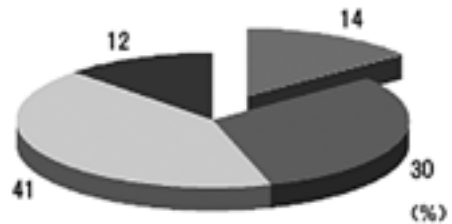
図1 がん対策推進基本計画（概要；がん対策基本法に基づき策定）

する主な薬剤には、医療用麻薬と鎮痛補助薬があります。医療用麻薬に関しては「医療用麻薬の正しい理解、管理、突出痛に対する適正な使用の指導、病期に応じた適切な投与剤形の提案」および、鎮痛補助薬に対しては「適用外使用に対する適切な指導」などの専門的知識が必要と月山先生も述べておられました。また、医師や看護師と比べて臨床経験が少ない薬剤師は、がん患者とのコミュニケーションが難しいと思っている傾向があります。これらに対して、“薬剤のことを十分評価できて、患者が十分理解できる指導”ができれば、“患者は安心して療養できる”との強いメッセージを頂きました。

月山先生のご講演の中で、薬剤師の「師」は先生の意味であり、薬剤師は“薬の先生になって患者だけでなく、医師・看護師にも薬のことを教えて欲しい”との言葉がありました。また、薬に関しては医師のイエスマンにならず、薬剤師自身が薬に対する知識・評価を持って積極的にチーム医療に参画して



自分や家族ががんにかかった時、痛みを取り除くためにモルヒネなどの医療用麻薬を使うことをどう考えますか



■いくらでも使いたい
 ■多少の痛みは我慢(させて)限定的に使いたい
 ■末期で他に治療手段がなくなったら使ってもいい
 ■できれば使いたくない

図2 がんの痛みに関する意識調査結果の一例

欲しいとも述べておられました(図4)。この言葉は、現在緩和医療に直接関わっていない薬剤師の心にも強く響いたようでありました。今回の講演を通じて、当初の目的である緩和医療に対して薬剤師のモチベーションが高まっただけでなく、薬剤師のプロ意識の向上に繋がり個々の薬剤師が自己研鑽に励んでくれるものと確信しております。

セミナー実施にあたり、ご協力をいただいた関係各位に深く御礼申し上げます。

(文責：薬剤部 小林 豊英、西原雅美)

痛みの治療における医療チームの役割

医師は治療をするための薬を処方する
 看護師は生活の中で痛みの評価をすることを手伝ってくれる
 薬剤師は薬のことを詳しく教えてくれる
 患者さんの訴えから、痛みの機序・原因を推察して適正な薬をさがす
 痛みや薬剤の効果の評価、副作用に対処する

図3 緩和医療における各医療職の役割

緩和医療医が薬剤師に期待すること

緩和医療の主な療法である薬物療法に薬学的な背景をもって専門的にかかわること

- 麻薬をはじめとする薬物に対する誤解をとく
- 薬物の使用目的に沿った薬の説明をする
- 効果、相互作用、副作用をスクリーニングする

チーム医療におけるチームメンバーとして全人的な医療に参加する
 処方計画を立てられる
 医師に対してYesManにならない
 患者の声を直接聞く

図4 薬剤師の役割として期待されること

医療安全対策室

■医療に係る安全管理のための職員研修 第25回特別講演会

- 【演題】 『医療安全としての静脈血栓塞栓症の予防』
【演者】 三重大学医学部附属病院 卒後臨床研修部 助教 太田覚史 先生
【開催日】 平成22年9月8日（水）午後5時～ ※DVD上映会：9月13日（月）
【出席者】 566名

第25回特別講演会が、9月8日（水）午後5時より臨床第一講堂・臨床第二講堂において、三重大学医学部附属病院 太田覚史先生を講師にお迎えし、各部門リスクマネージャー及び医療従事者・その他職員を含め566名（リスクマネージャー46名含む）の出席のもと開催されました。

木下病院長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室長の司会により、標記の特別講演会が行われました。講演は、“静脈血栓塞栓症とは？”から分かりやすく説明していただき、静脈血栓塞栓症の発生原因や予防の必要性等について紹介していただきました。

講演後の質疑応答では参加者の活発な質問に対し熱心にお答えいただきました。

また、研修終了後のアンケートでも「静脈血栓塞栓症の危険性や怖さと予防の大切さが良く分かった」等のご意見が多数寄せられました。

最後に閉会の挨拶として、大道医療安全推進部長より同先生への謝辞を述べられ、講演が盛会のうちに終了しました。



■医療に係る安全管理のための職員研修 第25回事例検討会

- 【演題】 『ICUの有効利用と医療安全』
【演者】 中央手術部 ICU室長 梅垣修 先生
【開催日】 平成22年9月30日（木）午後5時～
【出席者】 174名

9月30日（木）午後5時より、臨床第一講堂において、木下病院長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室長の司会により、教職員を対象に、第25回事例検討会が開催されました。

ICU室長の梅垣先生より、「ICUを積極的かつ効率的に利用することが病院全体の医療安全の向上に繋がる、ということを近時の対応事例を通して説明していただきました。

講演後は、参加者より多くの質問に熱心にお答えいただき、職員の関心の高さがうかがえました。

また、研修アンケートでも、「ICUが大きな手術後の患者だけでなく、診療科を問わず、受け入れ姿勢の幅の広さを知り積極的に相談、利用していこうと思う」「ICUに関する議論が出来たことはとても画期的であった」等の意見が多数寄せられました。

最後に閉会の挨拶として大道医療安全推進部長より謝辞を述べられ、講演が盛会のうちに終了しました。



***** お知らせ *****

『医療に係る安全管理のための職員研修』（事例検討会・特別講演会等）の出席は、医療に係る全ての職員（大学院生・非常勤＜診療許可有＞・アルバイト・派遣・委託職員等も含む）が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。

業務等の都合で出席できない方については、DVDの貸し出しや医療安全対策室横研修室で随時DVDがご覧いただけますので、お問い合わせください。（医療安全対策室 2号館5階 内線2990）

■感染対策研修会を開催しました

7月26日（月）、本年度2回目となります『第11回感染対策研修会』を開催致しました。

今回は、感染対策副室長 村尾 仁先生で『結核の院内感染対策』というテーマで行いました。詳細をお知りになりたい方は、感染対策室の貸出し用DVDを是非ご利用下さい。

研修会では、最初に結核の基礎知識、院内の結核感染リスク、リスク軽減のために必要な事についてのお話がありました。続いて院内での事例をもとに結核感染のリスクについて、さらにはリスクを軽減する為には抗酸菌の喀痰塗沫染色検査と培養検査を行うことが必要であるとお話があり、最後に採痰をする際の「採痰ブース さいたん」の紹介と「採痰の際にはこのブースを是非とも利用して欲しい」と言うメッセージで講演が締めくくられました。終了後に頂いた意見には、「結核は過去の疾患だと思っていた」「結核の検査の大切さがわかりました」「採痰ブースの重要さが理解できた」「喀痰検査をとるようにします」などの今回の研修会への肯定的な意見が多く寄せられていました。皆様の結核に対する基礎知識や感染リスクへの理解を深めることが出来たのではないかと、感染対策室では考えております。今回のこの研修を、今後の臨床の場で役立て頂きたいと思っております。

職員研修は医療法により、年2回の受講が義務づけられております。年2回の受講に満たない方は、必ずDVD上映会や借用等をご利用いただき、受講していただきたいと思っております。よろしくお願いたします。
(感染対策室 内線2780)

■淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラムの外部評価委員会の開催

平成21年度・文部科学省補助事業の大学教育充実のための戦略的大学連携支援事業で採択された『淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム』の外部評価委員会を、平成22年6月30日（水）、本学において開催いたしました。

外部評価委員には和歌山県立医科大学・教育研究開発センター・教授 羽野卓三先生、大阪市立大学・総合診療センター・准教授 首藤太一先生と大阪府医師会・副会長・茂松茂人先生にお願いしました。連携大学病院からは関西医科大学の高井学務事務部長を始め関係者、主幹校である本学からは近藤センター長と関係者が出席して、事業計画の取組みや活動実績等について評価をいただきました。



医学教育に精通されている先生方からは建設的なご意見や高い評価をいただきましたが、質疑応答では、この事業で期待されている地域病院、医師会や行政との連携を更に拡大することを期待されると共に、事業を成功させるためにもインストラクターの育成の重要性をアドバイスいただきました。

両校には少し差があるものの、今後は相互連携により、施設関係等のハード面だけではなく、ソフト面（研修内容等）でも医療人育成に寄与できるよう事業運営に邁進したいと考えています。

キャリア形成支援センター

■メディカルトレーニングサポートセンターでは『スキルアップセミナー』を開催しています

『淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム』では医療人養成事業としてスキルアップセミナーを開催しています。学生、研修医、医師を初め、コ・メディカル等医療人養成を対象に、シミュレーターや超音波診断装置等を用いて、消化器内視鏡トレーニング、上腹部エコー診断や心臓カテーテル手技トレーニング等のセミナーを計画しており、各診療科の先生方のご指導を得て、研修プログラムを策定、実施しております。



今回、ご紹介する研修は臨床検査技師を対象とした『上腹部エコー入門』で、指導者に講師・有坂好史先生にお願いしました。定員6名でしたが、興味のある方が多く、オブザーバーとして6名も参加いただき、熱心に受講されました。研修のアンケート結果からも予想以上の成果が得られ、知識と共に、手技についてもお教えいただきました。

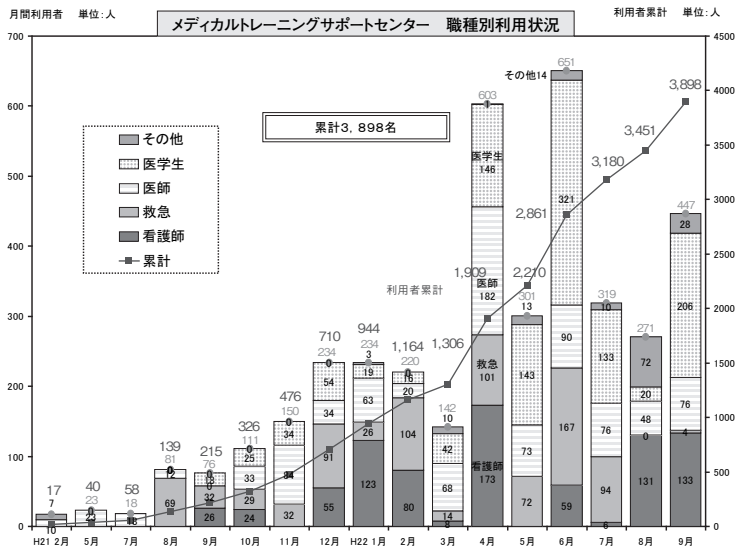
今後も、研修の募集に関しては研究棟と図書館棟の間の通路2階・掲示板に掲載いたしますので、興味のある方は是非ともご参加いただきますようお願いいたします。また、研修プログラム等に関するご要望等がございましたら、キャリア形成支援センターまでご連絡願います。

(内線3293・3295栗山・中野・上東)

■メディカルトレーニングサポートセンターの活動状況をご紹介します

平成21年10月に開設したメディカルトレーニングサポートセンターは医療人養成施設として医学生を初め、多くの医師や医療スタッフに利用されております。現在累計約4,000名弱になっています。

医療従事者の教育における「シミュレーション教育」は臨床現場を模擬的に再現した環境で、課題を体験し、知識や技能を向上させる学習方法であり、センターでは最新の高機能シミュレーターを取り揃え、本学も含め、地域医療人の養成施設として管理、事業の運営を図っています。



現在までの利用者と研修機器をご紹介します。シミュレーター等の機器は計画的に購入しますので、多くの方のご利用をお願いします。施設利用は基本的には午前9時から午後6時まで係員が常駐しておりますが、時間外でのご利用もできますので、事前に予約してご活用願います。

(メディカルトレーニングサポートセンター内線2143 上東)

キャリア形成支援センター

分類	備品名	台数	
臨床各科	糖尿病・内分泌	パラダイムインシュリンポンプ	1
	循環器内科	カテーテルトレーニングシミュレータ Circuit Altamira	1
		カテーテルトレーニングシミュレータ Circuit Trinity	1
	神経内科	脊椎注射シミュレータ	1
		腰椎穿刺シミュレータ“ルンバル”くん	2
	消化器内科など	超音波トレーニングモデル ECHOZY 腹部モデル 上腹部解剖モデル ECHO-ZOU 型	1
		超音波診断ファントム 上腹部病変付きシミュレータ	1
		超音波診断装置 Nemio XG SSA-580A /C4	1
		超音波診断装置 SSA-250A	1
		内視鏡手技トレーニング用シミュレータ GI Mentor II	1
		産消科	腹腔鏡下手術手技トレーニングシミュレータ LAP Mentor II
	消化器外科	腹腔鏡トレーナー機器 Med-1 11363-000	3
		内視鏡下手術トレーニングボックス	1
		エンドバス 内視鏡手術用 持針器	2
		クリックライン 把持鉗子	3
		KOH マイクロニードルホルダー	3
		エンドダイセクト	6
		エンドミニシアーズ	3
		胸部外科／循環器内科	心臓構造模型A型
	心臓構造模型B型		1
冠状動脈及び刺激伝導系モデル	1		
緊急産科	超音波検査トレーニングシミュレータ ウルトラシム	1	
産婦人科	胎児モデル(頭部4種類付き)	1	
	胎児モデル	1	
	新生児挿管モデル	1	
	会陰切除修復トレーナー	1	
	会陰縫合トレーナー	1	
	臨床用女性骨盤部トレーナー 16-0800	1	

分類	備品名	台数	
臨床各科	産婦人科	臨床用女性骨盤部トレーナー 16-0280	1
		臨床用女性骨盤部トレーナーフルセット	2
	泌尿器科	臨床用男性骨盤部トレーナー(黒ケース)	1
		臨床用男性骨盤部トレーナー(青ケース)	2
		直腸検査トレーナー	1
		直腸診シミュレーター	3
		眼底シミュレータ(症例画像ファイル)	3
	眼科・耳鼻咽喉科	机太郎ドライラボ(白内障手術練習用模擬眼セット)	2
		耳の診察シミュレータ EAR	4
		検眼鏡	49
		耳鏡	6
		検眼・耳鏡組合せセット	9
		スカイラックス ハロゲンランプ(無影灯)	2
		探血静注シミュレータ“シンジョーⅡ” [看護部3、キャリア2]	5
	静脈路確保	静脈注射トレーニングモデル	8
		小児の手背静脈注射シミュレータ	1
		動脈採血シミュレータ	1
	麻酔科	中心静脈挿管シミュレータ	1
		CVC穿刺挿入シミュレータ	5
		汎用超音波画像診断装置 iLook 25	1
基本手技	ノートボード	30	
	人工皮膚縫合セット	17	
	縫合手技トレーニング Dセット腕	5	
	縫合手技トレーニング Bセット血管	5	
	吻合練習キット	5	
	クーパー鉗	23	
	持針器(ハガール)	33	
	持針器(マチュー)	17	
	GAISTER 撮子	10	

キャリア形成支援センター

分類	備品名	台数	
基本手技	縫外科 GAISTER 持針器	10	
	その他	M175サカモト吸引シミュレータ	3
		エマジン小型吸引器 おもいやり 3WAY-750	3
		ストーマケア演習用モデル II型 (模擬便付)	3
		男性導尿シミュレータ	2
		新型男性導尿モデル	1
		導尿・浣腸トレーニングモデル TA-1 形	3
		フィジカルアセスメントモデル Physiko	2
		多機能心電計(解析機能付き)	1
		心臓病診察シミュレータ“イチロー”外部スピーカシステム付	3
		呼吸音聴診シミュレータ“Mr.ラング”外部スピーカシステム付	3
		コードレス聴診教育システムHI-STETHO 黒ケース(送信機2・受信機6)、青ケース(送信機1・受信機3)	各1
		輸液ポンプ	6
		輸液ポンプ TE-161SAP	3
		シリンジポンプ	2
		シリンジポンプ 35型 TE-351Q	3
		パルスオキシメーター	3
		ペンライト	5
		リットマン 聴診器	10
		手洗いトレーニング グリッターバグ	4
一次救命	救急医療部	レサシアン(全身)[学務6]	6
		レサシアン・トルソ(上半身タイプ)、挿管可能	6
		レサシアン・トルソ(上半身タイプ)、挿管不可	6
		リトルアン(上半身)	20
		リトルアンJr(子供タイプ・上半身)	14
		ベビーアン	15
		ALSシミュレータ(成人)	6
二次救命	SimMan 3G 高度救命トレーニング	1	

分類	備品名	台数	
二次救命	ALSベビー、ハートシム200コントローラ	1	
	ALSベビー	2	
	ハートシム4000	2	
	ハートシム200	1	
	乳児医療トレーニングシミュレータ“SimBaby”	1	
	新生児蘇生トレーニングシミュレータ“SimNewB”	1	
	救急医療部	気道管理トレーナ[キャリア1、救急3]	4
		気道管理トレーナー (Advanced Airway Larry Manikin)	3
		デラックスディファイカルトエアウエイ トレーナ	1
		AIRSIM エアウエイ トレーニングシステム(気道確保)	1
小児気道管理トレーナ		2	
バックバルブマスク(成人用)		19	
バックバルブマスク(小児用)		13	
バックバルブマスク(新生児用)		10	
FRx トレーナ(小児用キー)		7	
AED トレーナ(LP-500 : G2000対応)		14	
心肺蘇生	AED トレーナ(LP-CR Plus : 2005対応)	5	
	AED トレーナ(Laerdal : 2005対応) [救急1、学務3]	4	
	AED トレーナ(日本光電)	1	
	除細動器(福田電子、単相性、TCP付)	4	
	除細動器(福田電子) EC-560	1	
	除細動器(日本光電、単相性)	1	
	ミニアン	80	
	CPR トレーニングボックス	120	
	救急カート	1	
	その他	救急ボックス(成人用)	3
救急ボックス(小児用)		3	



訃 報

本学名誉教授（眼科学）で、元附属病院長の東 郁郎先生（80歳）が、平成22年10月12日（火）に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



寄付金報告

■ 創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年6月21日から平成22年10月10日までの間の寄付金入金件数は8件、金額は2,950,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年10月10日までの寄付金入金件数は394件、金額は132,732,000円です。

(順不同・敬称略)

仁泉会高知県支部 医療法人博愛会博愛茨木病院 須賀工業株式会社大阪支社
泊 幸男 中尾 基克 匿名3件

■ 新学部設置事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年6月21日から平成22年10月10日までの間の寄付金入金件数は1件、金額は50,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年10月10日までの間の寄付金入金件数は94件、金額は28,121,000円です。

(敬称略)

中尾 基克

■ 教育環境整備寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年6月21日から平成22年10月10日までの間の寄付金入金件数は5件、金額は5,500,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年10月10日までの寄付金入金件数は72件、金額は159,330,000円です。

(順不同・敬称略)

医療法人微風会 鈴木 康道 佐々木 幹郎 匿名1件

■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年6月21日から平成22年10月10日までの間の寄付金入金件数は2件、金額は130,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年10月10日までの寄付金入金件数は20件、金額は3,313,460円です。

(順不同・敬称略)

仁泉会守口支部(むらさき会) 三上 正憲

■ 大阪医科大学基金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年6月21日から平成22年10月10日までの間の寄付金入金件数は39件、金額は6,910,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年10月10日までの間の寄付金入金件数は172件、金額は21,252,000円です。

(順不同・敬称略)

アイケイファーマシー株式会社 日本エア・リキード株式会社関西地域本部 東洋紙業高速印刷株式会社

寄付金報告 西水会寄付報告

大阪府済生会泉尾病院 有限会社すばる印刷 大阪電材株式会社 シンワ株式会社
 医療法人回生会 医療法人山弘会上山病院 神戸済生会病院 医療法人明生会賀茂病院
 医療法人社団松仁会内田病院 医療法人大権会 磯田 洋三 俵 正市 嶋田 準一
 鈴木元太郎 平井 博 岡田 豊子 大八木 明 嘉村 智美 奥村 隆司 中井 久徳
 大塚 和生 熊谷 広治 宮本新太郎 岡田 直忠 中村 晋作 木野 昌也 匿名9件

※これまで恒常的なご寄付はフレンズ会で承っていましたが、現在は「大阪医科大学基金」で承っております。
 今までどおり恒常的なご寄付を賜りますようお願いいたします。

<寄付についてのお問い合わせ>

募金推進本部

TEL：072-684-7243(直通) FAX：072-681-3723

E-mail：kikin@art.osaka-med.ac.jp

西水会寄付報告

平成22年度、西水会食事会で実施いたしました募金の総額は、¥89,142でした。

以下、領収書のとおり寄付いたしましたのでご報告いたします。

領収書

大阪医科大学
 西水会
 〒595-8511 大阪府守口市西水1-1-1
 TEL: 072-684-7243 FAX: 072-681-3723

寄付金
 ¥89,142

2010年8月11日

大阪医科大学
 西水会
 〒595-8511 大阪府守口市西水1-1-1
 TEL: 072-684-7243 FAX: 072-681-3723

このたびは、ユニセフ基金をありがとうございました。
 (私)大阪医科大学のみなさんが、世界の子どもたちが暮らす
 国境について考え、ユニセフに協力してくださったことを心強く
 思います。みなさんからの基金は、150以上の国と地域でユニセフ
 のさまざまな活動に使われます。
 ユニセフは、貧困、紛争などの厳しい状況下で懸命に生きる子
 どもたちを支え、すべての子どもの権利が守られる世界を目指して活
 動を続けています。
 これからも同じ地球に生きる仲間として力を合わせ、よりよい世
 界を築いていきましょう。

2010年08月11日

財団法人日本ユニセフ協会
 ユニセフ学校募金委員会
 会長 赤松 良子

このたびはユニセフ学校基金にご協力を賜り、
 誠にありがとうございました。
 このお礼状におまじ感謝状をお送りいたします。
 ご協力いただきました皆様へよろしくお伝えいた
 せければ幸いです。
 今後とも引き続きユニセフの事業にご理解とご
 協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申します。
 貴基金がら度々いただきますのご愛顧をお祈り申
 しあげます。

ユニセフ学校募金委員会
 ●〒595-8511 大阪府守口市西水1-1-1
 TEL: 072-684-7243
 ●〒595-8511 大阪府守口市西水1-1-1
 TEL: 072-681-3723

行事日程

■主な行事日程(平成22年12月～平成23年2月)

12月1日(水)	診療科長会	2月2日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会・診療科長会
4日(土)	実験動物慰霊祭	4日(金)	大学院医学研究科入学試験(～5日)
7日(火)	学位申請受付締切	8日(火)	理事会
8日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会・看護学部教授会	9日(水)	看護学部教授会
11日(土)	市内5大学リレー市民講座	10日(木)	医学部一般入学試験(前期)1次試験
14日(火)	理事会	12日(土)	第105回医師国家試験(～14日)
17日(金)	看護専門学校クリスマスコンサート	14日(月)	看護学部臨時教授会 看護学部センター試験利用入学試験1次試験合格発表
18日(土)	平成22年度第6回市民公開講座	17日(木)	看護学部センター試験利用入学試験2次試験
21日(火)	看護専門学校冬期休暇(～1月7日)	19日(土)	医学部教授会・医学研究科委員会 医学部一般入学試験(前期)1次試験合格発表 看護学部臨時教授会 看護学部センター試験利用入学試験2次試験合格発表
22日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会・病院運営会議	20日(日)	第100回看護師国家試験
27日(月)	大学協議会 医学部・看護学部冬期休暇(～1月7日)	23日(水)	病院運営会議 医学部一般入学試験(前期)2次試験
1月4日(火)	年賀交歓会	25日(金)	医学部臨時教授会 医学部一般入学試験(前期)2次試験合格発表 医学部センター試験利用入学試験1次試験合格発表 大学院医学研究科入学試験合格発表
5日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会・診療科長会	27日(日)	看護学部一般入学試験(後期)
12日(水)	看護学部教授会	28日(月)	大学協議会
15日(土)	大学入試センター試験(～16日) 平成22年度第7回市民公開講座		
18日(火)	理事会		
19日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会		
21日(金)	看護学部一般入学試験(前期)		
24日(月)	大学協議会		
26日(水)	病院運営会議		
28日(金)	看護学部臨時教授会 看護学部一般入学試験(前期)合格発表		

お詫びと訂正

前回発行の学報85号に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正致します。

P2 看護学部開設記念式典 本文10行目 北野祐考君 → 北野裕孝君

p33 市民公開講座 タイトル文字 平成21年度 → 平成22年度

■主要会議とその主な議題(平成22年8月～10月)

【理事会】

[平成22年8月10日]

—審議事項—

1. 大阪医科大学教授会規程の一部改正について
2. 学校法人大阪医科大学予算規程の一部改正について
3. 周産期センター拡張整備事業について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会理事長会報告
3. 病院経営検討委員会報告について
4. 学事関係報告
5. 病院関係報告
6. 看護専門学校関係報告
7. その他

[平成22年9月14日]

—審議事項—

1. 病院オーダーリングシステムの更改について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 社団法人日本私立医科大学連盟理事長会報告
3. 周産期医療環境整備事業に関する報告
4. 予算及び補助金の執行管理について
5. 周産期医療環境整備事業に関わる補助金返還問題の経緯
6. 病院経営改善委員会報告
7. 大学経営改善委員会報告
8. 栗本基金経過報告
9. 学事関係報告
10. 病院関係報告
11. その他

[平成22年10月12日]

—審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学理事会規程の一部改正について
2. 学校法人大阪医科大学担当理事運営会議規程の一部改正について
3. 平成23年度予算編成方針について
4. 学校法人大阪薬科大学との連携について
5. 看護系等の大学院設置の検討について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 社団法人日本私立医科大学協会報告
3. 病院経営改善委員会報告
4. オーダリングシステムの更改について
5. 周産期医療環境整備事業に関する報告
6. 学事関係報告
7. 病院関係報告
8. 周産期医療環境整備事業の年度内未執行による補助金返還問題について
9. その他

【大学協議会】

[平成22年9月27日]

—協議事項—

1. 大阪医科大学医学部のポリシー等について
2. 養護教諭2種に係る科目履修について
3. その他
 - 1) 保健師実習施設について
 - 2) 看護学部の将来的な図書費用について

[平成22年10月25日]

—協議事項—

1. 大阪医科大学新研究科設置検討委員会規程(案)について
2. 大阪医科大学学則の一部改正について
3. 養護教諭2種資格取得の報告
4. 医看融合教育について
5. 看護学部臨床教育協力機関協定規程(案)について

【大講座主任教授会】

[平成22年10月13日]

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 今後の大講座主任教授会について

【医学部教授会】

[平成22年9月1日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 助教の申請基準に係る教授会申し合わせについて
3. 第2学年生の休学願い出について

主要会議報告

4. 大阪医科大学医学部のポリシー等について
5. 学校法人大阪医科大学中山国際医学医療交流センター規程の一部改正について
6. 大阪医科大学市民公開講座運営委員会規程の一部改正について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 倫理委員長報告

[平成22年9月15日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 助教の申請基準に係る教授会申し合わせについて
3. 平成22年6月16日付文部科学大臣政務官通知(22文科高第236号)『学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行について(通知)』への対応(案)
4. 学校法人大阪医科大学鈎奨学基金規程及び細則の一部改正について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告
3. 教育センター長報告
4. 倫理委員長報告
5. その他

[平成22年10月6日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 平成22年6月16日付文部科学大臣政務官通知(22文科高第236号)『学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行について(通知)』への対応(案)
3. 学部学生の退学願い出について
4. 学校法人大阪医科大学伊藤奨学基金規程及び細則の一部改正について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告
3. 病院長報告
4. 市民公開講座運営委員長報告
5. 研究機構長報告

[平成22年10月20日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合教育に関する学長諮問委員会報告
3. 今後の教授選考について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 研究機構長報告

【大学院医学研究科委員会】

[平成22年9月1日]

—審議事項—

1. 学外研修許可願(海外)について
2. 大学院医学研究科に係る改革等について(案)
 - 1) 大学院医学研究科に係る改革等(Ver.2)について
 - 2) 大阪医科大学大学院学則(案)
 - 3) 大阪医科大学大学院医学研究科教授会規程(案)
 - 4) 大阪医科大学医学部教授会規程(案)
 - 5) 大阪医科大学大学院委員会規程(案)
 - 6) 大阪医科大学教授選考規程(案)
 - 7) 大阪医科大学大学院医学研究科履修細則(案)
 - 8) 大阪医科大学大学院医学研究科長期履修規程(案)

—報告事項—

1. 平成23年度大学院入学試験(10月実施)願書受付について
2. 学位のための語学試験受付について
3. 女性健康科学研究会第2回ロート女性健康科学研究助成テーマ募集について
4. 公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団からの各種案内について

[平成22年9月15日]

—審議事項—

1. 大学院医学研究科に係る改革等について(案)

—報告事項—

1. 2011年度日本政府(文科省)奨学金留学生受入内諾について
2. その他

〔平成22年10月6日〕

—報告事項—

1. 平成23年度大学院入学試験(10月実施分)について
2. 公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団からの各種案内について
3. カロリンスカ研究所・理化学研究所共催「国際集中講義」開催について
4. (財)稲森財団第26回京都賞記念講演会およびワークショップについて

〔平成22年10月20日〕

—報告事項—

1. 平成23年度大学院入学試験願書受付状況について
2. 平成22年度第Ⅱ回学位論文審査申請受付期間について

【看護学部教授会】

〔平成22年9月8日〕

—審議事項—

1. 各種委員会委員の配置変更について
2. 学校法人大阪医科大学中山国際医学医療交流センター規程(案)について
3. 大阪医科大学市民公開講座運営委員会規程(案)について
4. 授業評価の公開について
5. 平成22年度図書の購入について
6. 大阪医科大学看護学部親睦会会則(案)について
7. 大阪医科大学看護学部奨学金給付規程(案)について
8. 養護教諭2種免許取得について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 各種委員会報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) F D 部会報告
 - 5) 実習部会報告
 - 6) 看護備品管理報告
3. 学部長報告

〔平成22年10月13日〕

—審議事項—

1. 看護研究雑誌表紙(案)について
2. 既修得単位の認定について
3. 大阪医科大学看護学部履修規程の一部改正について
4. 在宅看護学実習施設の追加について
5. 学費納入に関する申し合わせ事項について
6. 各種委員会委員の配置追加について
7. 大阪医科大学看護学部臨床教育協力機関協定規程(案)について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 大学協議会報告
3. 各種委員会報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) F D 部会報告
 - 5) 実習部会報告
 - 6) 看護備品管理報告
4. 看護学部棟改修計画(案)の現状について
5. 学部長報告
 - 1) 平成22年度11月～平成23年3月教授会開催予定について
 - 2) 大学院設置について
 - 3) 保健師教育について
 - 4) P A 会について
6. その他



保健管理室からのお知らせ

■ 健康診断の結果を活用しましょう！

10月18日（月）～10月29日（金）に平成22年度職員定期健康診断、特殊健康診断、長時間労働者健康診断を実施しました。健康診断は「自分の健康、生活習慣を考える」良い機会です。所見の有無に関係なく今回の健康診断結果を活用して、自分自身の体の状態や生活習慣を振り返ってみましょう。

また定期的に健康診断を受検することは、感染性疾患の早期発見・感染防止といった感染症対策にも重要なことであり、健康診断受検を含めて“自分の健康を管理する”ことは医療従事者の義務と言えるでしょう。

【健康診断の結果が・・・】

正常範囲内

異常が無くても、前回結果と比べたり、日頃の生活習慣を振り返ってみましょう。

『バランスよい食事』 『楽しく運動』 『ゆっくり休養』

要経過観察

「再検査、精密検査、受診」を勧められている場合は放置せずに必ず再検査・受診をして下さい。また再検査や受診の必要がなくても、食生活、運動、喫煙、飲酒など生活習慣を見直し改善しましょう。治療中の方は、健診結果を主治医に見てもらいましょう。

要医師指導

歩数計貸し出します！

保健管理室では歩数計の貸し出しを行っています。ご自身のデータを基に、1日の生活（身体活動）パターンや消費カロリーの推移を1日単位でグラフ化し、客観的に見る事が出来るようにしてお渡します。一般的な歩数計と同じように装着し、いつものように生活して頂くだけです。歩数表示の他、1日のエネルギー総消費量・運動量などが表示され、運動の強度判定も表示可能です。自分では気付かなかった生活習慣を一緒に発見しましょう。



■ 一人ひとりの注意でインフルエンザを予防しましょう！

医学部、看護学部学生や医療従事者はインフルエンザに感染する可能性が高いとともに、ハイリスク群（患者様）にインフルエンザを伝播する可能性が高いことも十分に認識し、予防に努めましょう。感染症や感染防止について知識を持ち、日頃より十分に注意することが重要です。

【予防の基本はワクチン接種】

インフルエンザの予防には流行期前（11月頃）のワクチン接種が有効です。本学では11月15日（月）～19日（金）に学生、教職員対象にインフルエンザワクチン接種を実施しました。未だワクチン接種を受けておられない方は他の医療機関を受診し、ワクチン接種をお奨め致します。

【発熱、咳など疑わしい症状が出現した場合】

罹患が疑われる症状が出現した場合、業務や講義、実習を止めて、上司や保健管理室（学生の場合）に報告し指示を仰いで下さい。またインフルエンザと診断された場合は自宅療養をして下さい。職場や学校を休むわけにはいかないと受診が遅れる場合が少なくありません。早期の治療は自分を守るだけでなく、他人への感染を防ぐためにも重要です。

軽率な行動が周辺の人々、そして患者様に迷惑をかけることになります。各自責任ある行動をとってください。

あなたは大丈夫？ 咳エチケット

咳やくしゃみの飛沫にはウイルスや細菌などの病原体が大量に含まれています。咳をすると病原体を含んだ飛沫が飛び散り、その飛沫を吸い込んだり、飛沫が付着した手すりやドアノブなどに触れた手で目、鼻、口を触れたりすると病原体が体内に入り感染します。そのため「衛生的手洗い」や「咳エチケット」が重要です！！出来ていない人が多いです。一人一人が少し注意するだけで、感染防止になります。

- ① 咳、くしゃみが出たら、マスクを着用しましょう。
- ② マスクが無い時は、咳、手ではなく、ハンカチやティッシュで口と鼻を覆い、周囲の人から顔をそむけましょう。使用後のティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てましょう。
- ③ 咳をしている人をみたら、マスク着用を勧めましょう。



■ 「手洗い」出来ていますか？



洗い残しが起こり易い部位

「鼻をかむ」「鼻を手でこする」「くしゃみ・咳を手で覆う」こんな時、ウイルスや細菌などが手に大量に付着します。「手」を介した感染は注意すべき感染パターンの一つです。よって感染予防として『手洗い』は大変効果的です。

『手洗い』は誰でもできる感染予防策です。食事前や外出後等には特に『手洗い』を意識して、感染症を予防しましょう。

★20～30秒間かけて、指と指の間、親指の付け根、指先、手首まで流水で洗い流すようにしましょう。

■ ノロウイルス感染症にも気をつけましょう

ノロウイルス感染症は、毎年11月～4月頃には流行しますので、発症防止・感染拡大防止のために、以下の点に注意して下さい。

- ① 流水・石けんによる手洗い（帰宅時、食事前、調理前、配膳前、トイレ後）
- ② 加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱する。特にかきやはまぐり、あさりなどの二枚貝類は十分に加熱する。
- ③ 調理したまな板や包丁は、すぐに洗い熱湯消毒する。

ノロウイルス感染症発生時の嘔吐物・ふん便等の処理

- 使い捨てのマスク・手袋を着用し、嘔吐物やふん便は乾燥しないうちに速やか処理する。
 - 250倍に薄めた塩素系漂白剤を用いて、嘔吐物を浸すように拭き取る。
 - 嘔吐物等で汚れた衣類等の消毒
 - ① 50倍に薄めた塩素系漂白剤を用いて、布等で嘔吐物等を拭き取り、30分以上塩素系漂白剤につけこむ。
 - ② 他の衣類と分けて洗う。
- ★ 症状が消えてからも2週間程ふん便中にウイルスが排出されていますので、手洗いは続けて十分行って下さい。

■ 3回目B型肝炎ワクチン接種・3回ワクチン接種後抗体検査のお知らせ

下記の要領で第3回目B型肝炎ワクチン接種、3回ワクチン接種後抗体検査を実施致します。対象となられる方には案内を個人通知致しますので、受検して下さい。

	第3回目B型肝炎ワクチン接種	3回目ワクチン接種後抗体検査
日 時	平成22年12月2日（木）、3日（金） 15：30～16：30	平成23年1月20日（木）、21日（金） 15：00～16：00
場 所	保健管理室（研究棟1階）	

歴史資料館関係 俳句

■歴史資料館からのお知らせ

【 歴史資料館展示資料恵与者 】

平成22年4月1日から平成22年9月30日までに1名の方（別表）よりご恵与賜りました。

本事業の趣旨をご理解いただきましたご厚意に対しましてここに改めて心よりお礼申し上げます。

(敬称略)

受領日	恵与者氏名	資料	恵与者と本学の関係
H22.8.30	森田 大	教科書：内科診断学 岩田秋之助・大島正徳 共著	医学部 昭和47年卒



◆大阪医科大学俳句会（八・九・十月）

グラジオラス青い花瓶をえらびけり

穴二つあけた雲ありゑのこ草

ジュークボックスといふ骨董夏の果

椎の実をともしに拾ひしことありぬ

新涼や仲良き鳩の身づくろひ

黒髪に仏桑花挿し婚約す

神饌に百味の御食や秋祭

椎茸や子は町に住む落人村

運動会敬老席の大エール

踏切開くまで片影を大切に

菊酒や血脈多き伊賀甲賀

立秋やくるりとまはる風見鶏

山小屋の消灯早き星流る

月曜の靴の重たき鴟日和

朝焼の雲に浄土の母来しや



山崎隆司

同

中川一成

同

田中豊夫

吉田孝江

同

飯塚久子

同

美濃 眞

同

宮脇芳美

同

寺田千代子

羽根美恵子

● 平成22年度 医療事故防止標語の標語決定 ●

医療の安全確保に対する意識向上のための『平成22年度医療事故防止の標語』を職員より募集し、応募総数172作の中から、厳正かつ公平な検討の結果、下記のとおり各賞が決定しました。

※ 入賞作品については、シール形式にし、外来・病棟・各部署へ貼付しています。

◎理事長賞（医事課）



◎病院長賞（54病棟）



◎医療安全推進部長賞（臨床治験センター）



◎佳作

- ・ もしかして 気づきで守れる 安全環境
- ・ 聞く耳もとう 患者の声と 職場の声
- ・ みんなで持とう 心のゆとりと 責任感
- ・ 画面より 患者と向き合う 安全管理
- ・ 事故防ぐ 気づばり 目くばり 思いやり

- （総務部人事課）
- （整形外科）
- （施設課 電気）
- （診療情報管理室）
- （中央放射線部）

表紙絵：銀杏

イチヨウの実である。果肉の独特の不快な臭いを嫌がる人は多いが、フライパンでカラカラと音をさせながら殻を炒って、硬い殻から取り出す緑青色の種子は実に美味である。茶碗蒸しの具に、前菜に、よく料理にでてくる。（食べ過ぎにはご用心）

京都駅前東本願寺門前に古くから区民の木として、イチヨウの大木がある。9月末黄葉の色づき（銀杏黄葉：いちようもみじ）にはまだ早い、特徴的な扇の形の緑葉に混じって肌色をした実が鈴なりに生っていた。

有名な神社仏閣の境内には、天然記念物となっている老大樹をみる。もみじの紅葉とともに、黄色一色に塗りつぶされた眺めはすばらしい晩秋の風物詩である。黄色一色の葉の美しさ、散り敷いた落葉の風情は詩になるが、実が話題となるのは、食用以外には少ない。

大阪医科大学 名誉教授 富士原 彰



「高原」(F130号)

130号の大作「高原」を寄贈された山田嘉一郎画伯は大正13年洲本市生まれ、幼少より絵画に傾倒し洲本中学(旧制)在学中に若干15歳で第17回白日会展に入選されました。その後は家業を継ぐため薬剤師を目指されましたが、途中で医師として歩むことを決心され大阪高等医学専門学校に入学、昭和24年(第18期)本学を卒業されました。

当初は外科を専攻されていましたが画業に少しでも専念できるよう皮膚科に転向され、大阪市西淀川区で医院を開業されました。昭和36年に一水会展初入選以後、昭和53年にはサロン・ドートンヌでゴーギャン賞、昭和56年には日展特選となり、医業の傍ら画家として大いに活躍をされてきました。平成20年には第70回一水会展で文部科学大臣賞を受賞され、その作品群はプチパレ美術館(スイス・ジュネーブ)、オーバル美術館(ポルトガル・リスボン)、尾道市立美術館などに所蔵されています。

山田先生は大変残念ながら、本年6月10日に86歳で逝去されました。先生から作品寄贈の申し出をいただいてから2年余り、体調を崩されて生前にその思いがかなうことはありませんでしたが、ご遺志はご遺族に引き継がれ、本年8月に看護学部宛の50号作品と併せて奥様からご寄贈いただきました。

「高原」は秋の野に放たれた牛たちが广大で豊かな自然の中、静かに時を過ごす時間が雄大に描かれています。

作品は本館・図書館4階の第1会議室前の壁に掲げられています。教職員、学生の皆様には是非、お立ち寄りいただき直(じか)にご覧願います。大阪医科大学に生きる多くの後進の方々に見ていただくことが、先生の思いに応える一番の“こと”ではないかと思っております。

個人情報の取扱いについて：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い本学では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第86号

発行年月 平成22年11月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>